



高梁市人口ビジョン

平成 28 年 1 月

改訂年月日

第 1 回 令和 2 年 12 月



目 次

I . 人口ビジョンの位置づけ	1
II . 高梁市の人口の現状と分析	2
1. 人口動向分析	2
(1) 人口の推移と将来の見通し	2
(2) 出生・死亡(自然増減)と転入・転出(社会増減)	3
(3) 在住外国人の状況	5
2. 自然減(出生者数低下)の要因	6
(1) 未婚者の状況	6
(2) 平均初婚年齢	6
(3) 合計特殊出生率の推移	7
3. 社会減(転出超過)の要因	8
(1) 人口移動の状況	8
4. 高梁市における人口移動の状況	10
(1) 通勤・通学の状況	10
(2) 高梁市における主な県内移動(転入・転出)	11
III . 人口の将来展望	12
1. めざすべき将来の姿の基礎となる市民の希望等	12
(1) 結婚・出産・子育てに関する意識	12
(2) 定住・移住に関する意識	16
2. めざすべき将来の方向	20
3. 人口の将来展望(長期人口ビジョン)	20
参考資料(地域別人口推計)	23

I. 人口ビジョンの位置づけ

人口ビジョンは、まち・ひと・しごと創生法に基づく市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり、地方創生の実現に向け効果的な施策を企画立案するための重要な基礎資料として位置づけるものである。

本市においては、本市の人口の現状分析、将来推計を行い、めざすべき将来の方向と人口の将来展望を示すものとして平成 28 年 1 月に策定した。

この度、第 2 期高梁市まち・ひと・しごと総合戦略(総合計画・前期基本計画)を策定するにあたり、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び岡山県人口ビジョンの改訂も踏まえ、社会情勢の変化を加味して本市の人口ビジョンを改訂するものである。

Ⅱ. 高梁市の人口の現状と分析

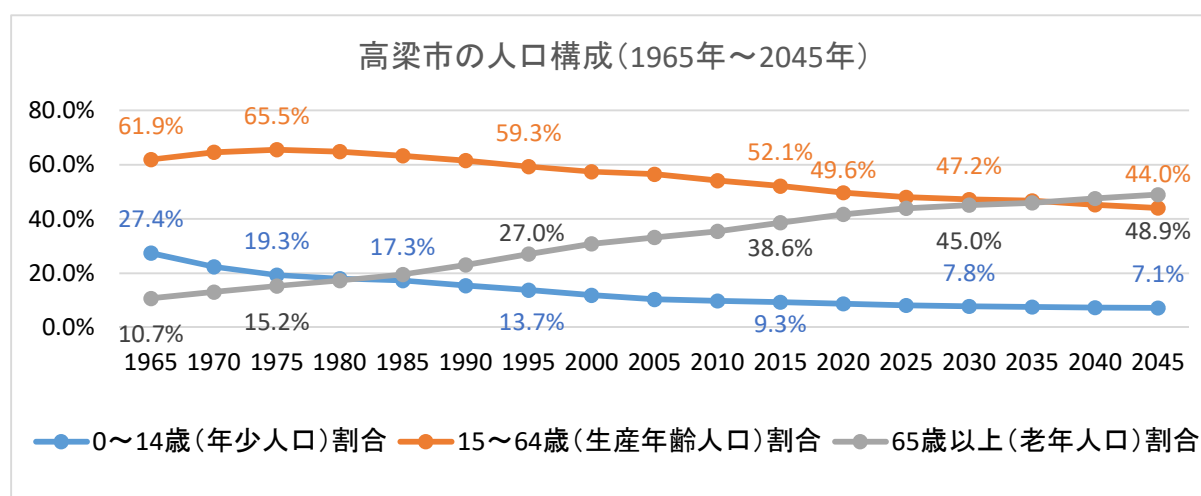
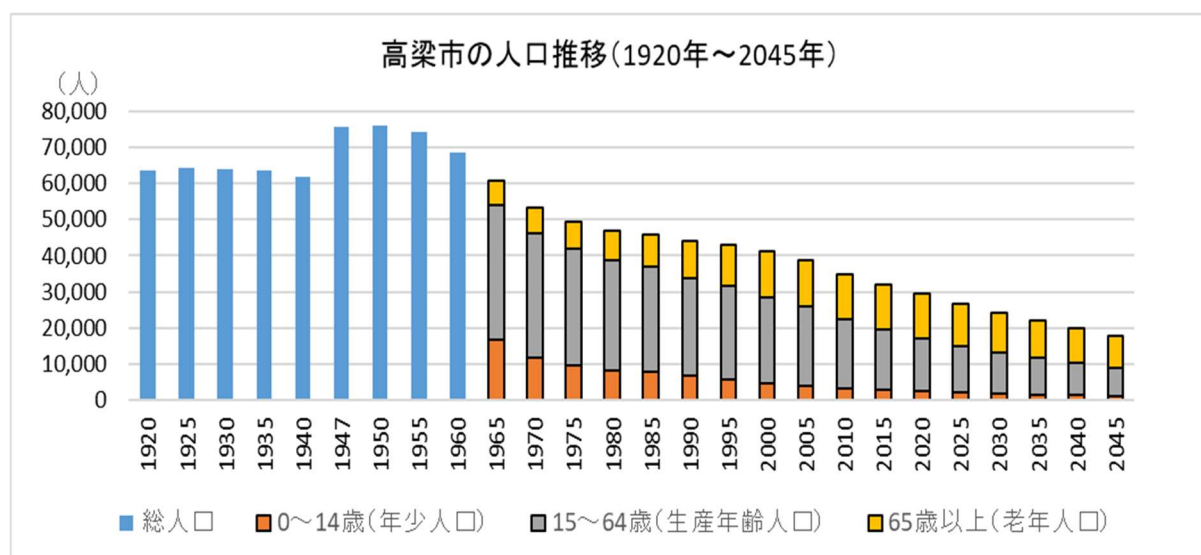
1. 人口動向分析

(1)人口の推移と将来の見通し

国勢調査から人口推移をみると、戦後、人口が増加し、1950(昭和 25)年の 75,824 人を頂点として減少を続けている。特に高度経済成長期にあたる 1955(昭和 30)年から 1975(昭和 50)年に大きく減少し、1975(昭和 50)年には 5 万人を割り込んだ。直近の 2015(平成 27)年では 32,075 人で、ピーク時の半数以下に減少している。

資料のある 1965(昭和 40)年以降の年齢構成をみると、生産年齢人口の割合は 1975(昭和 50)年の 65.5%から徐々に低下し、1995(平成 7)年には 6 割を切っている。年少人口の割合も 1965(昭和 40)年には 27.4%であったが 2015(平成 27)年には 9.3%となっている。

一方、老年人口の割合は上昇を続け、1985(昭和 60)年には年少人口割合を上回り、2015(平成 27)年には 38.6%を占めている。

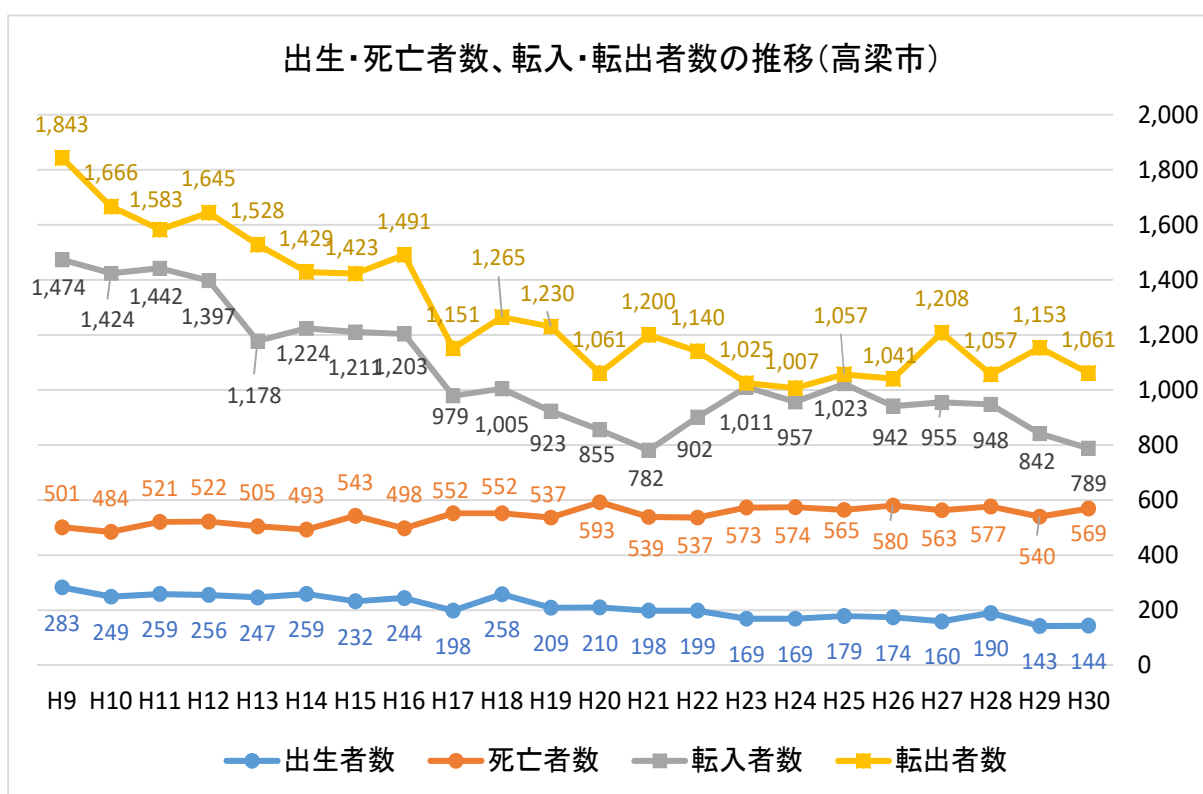


出典)2015 年までは「国勢調査」の人口、2020 年以降は国立社会保障人口問題研究所の推計値

(2) 出生・死亡(自然増減)と転入・転出(社会増減)

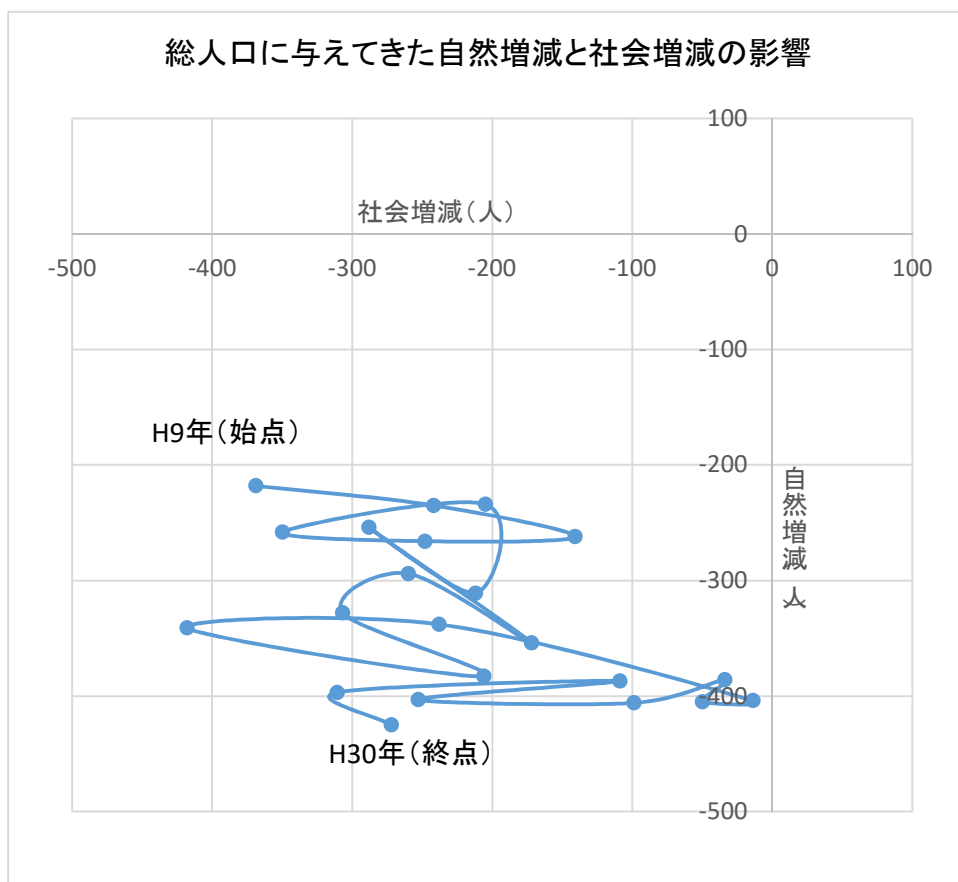
出生者数と死亡者数による「自然増減」については、資料のある平成 9 年以降、一貫して「自然減」であり、その差は拡大の傾向にある。出生数は、出生率の低下や母親世代の減少、晩婚化により減少傾向にあり、平成 9 年に 283 人、平成 19 年に 209 人、平成 30 年には 144 人と、10 年間で約 3 割の減少率となっている。一方で、平均余命の伸びを背景に、死亡者数はほぼ一定で推移している。

「社会増減」については、転入者数と転出者数いずれも減少傾向にあり、一貫して転出者数が転入者数を上回る「社会減」の状況が続いている。平成 23 年～26 年の間は、転入者の増加によりその差がゼロに近づき社会減が縮小したが、その後は再び拡大傾向にある。



出典)岡山県統計年報

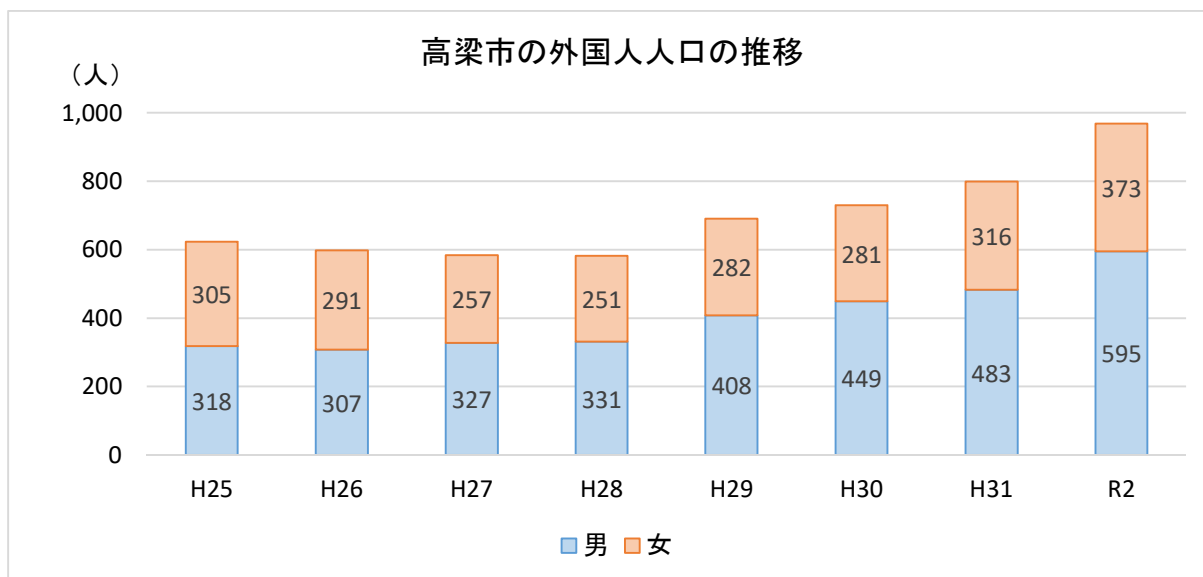
総人口の推移に対する「自然増減」と「社会増減」の影響をみると、「社会増減」は、各年の状況により影響度は拡大・縮小を繰り返している。一方、「自然増減」については、年々自然減への影響度が深まっており、「社会増減」よりその影響が大きくなっている。



出典)岡山県統計年報より作成

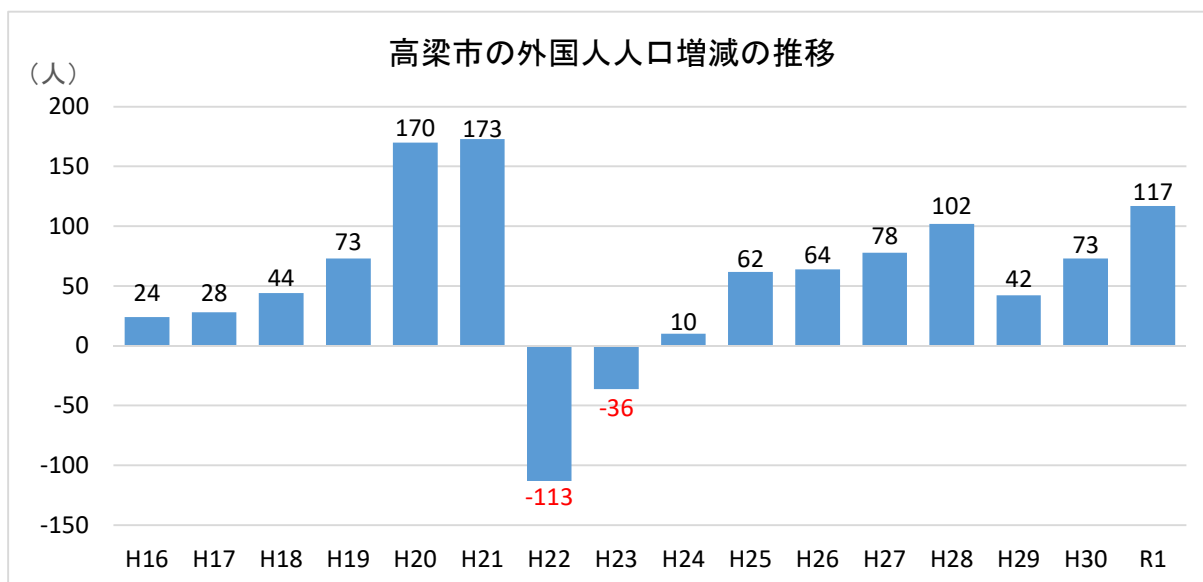
(3) 在住外国人の状況

平成 25 年に 623 人だった本市在留の外国人は、令和 2 年には 968 人と約 55%増加している。平成 29 年以降、増加を続けている要因としては、吉備国際大学の留学生や外国人技能実習生の受入拡大が影響している。



出典) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(※平成 24 年以前は外国人データ無し)

在留外国人の人口動態をみると、平成 20 年と 21 年に 170 人を超える増加となっている。その後、平成 22 年、23 年に一時減少に転じたが、その後は再び増加が続いている。



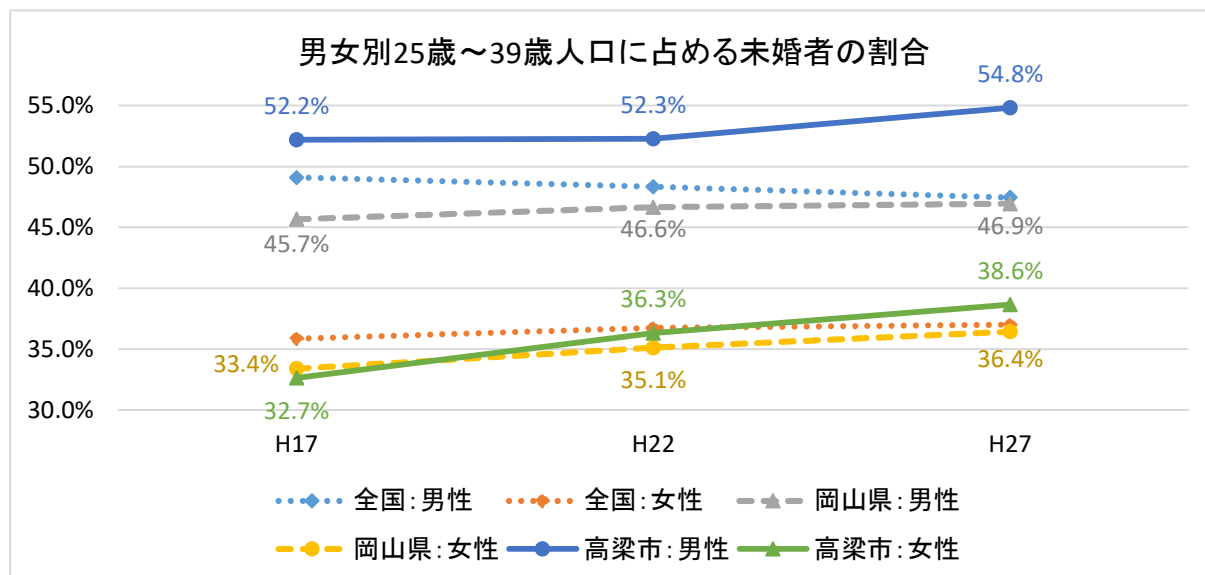
出典) 岡山県毎月流動人口調査(各年 10 月 1 日現在)

2. 自然減（出生者数低下）の要因

(1) 未婚者の状況

25歳～39歳の男女別人口に占める未婚者の割合をみると、平成27年では男性54.8%、女性38.6%であり、いずれもこの10年間で上昇している。

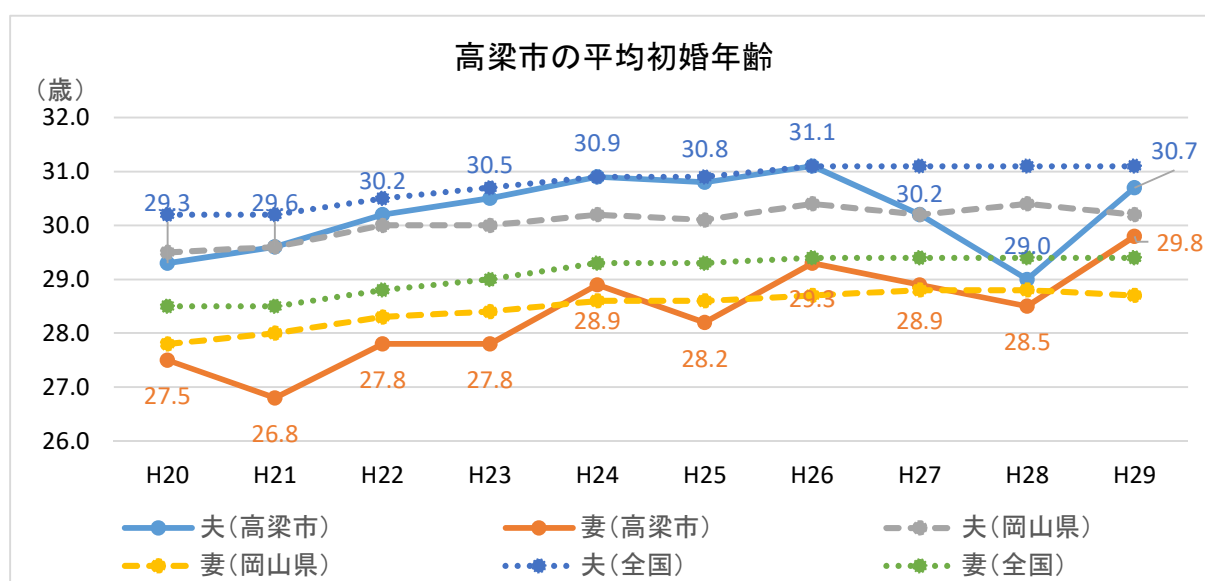
また、全国や岡山県と比較しても、本市は未婚者の占める割合が高く、特に男性の割合が高くなっている。



出典) 国勢調査より作成

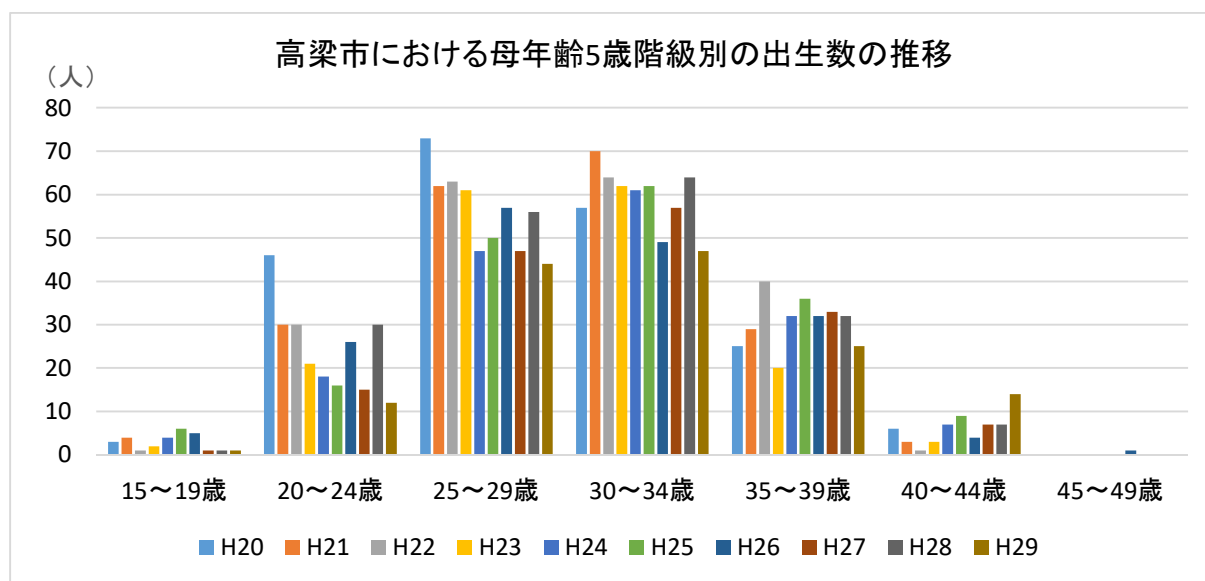
(2) 平均初婚年齢

本市の平均初婚年齢では、男性は30歳前後で推移している。女性は緩やかに上昇しており、晩婚化の傾向にある。



出典) 岡山県衛生統計年報

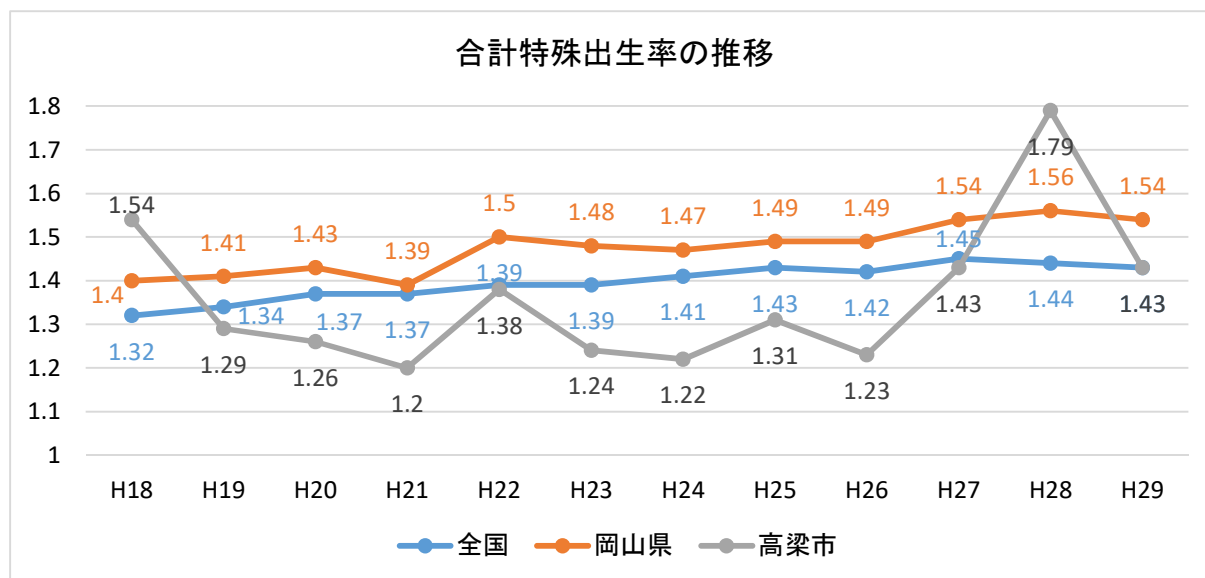
なお、晩婚化などの影響により、20 歳代から 30 歳前半での出産の割合が低下している。一方で 40 歳代での出産の割合が上昇傾向にある。



出典)岡山県衛生統計年報

(3) 合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率は年によって変動があるが、直近 10 年を見ると、全国平均や岡山県平均を下回る年が多くなっている。



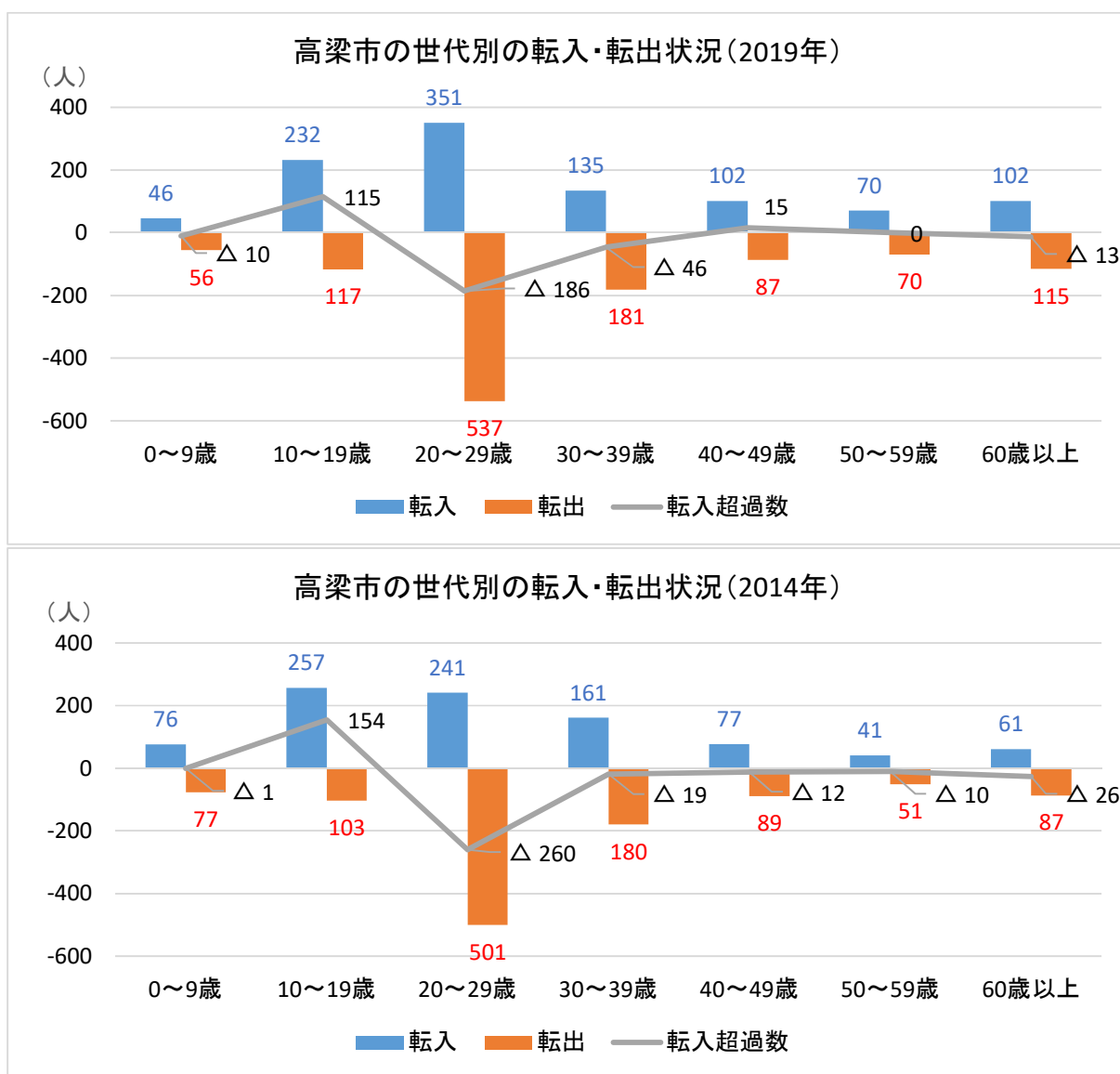
出典)岡山県衛生統計年報

3. 社会減（転出超過）の要因

(1) 人口移動の状況

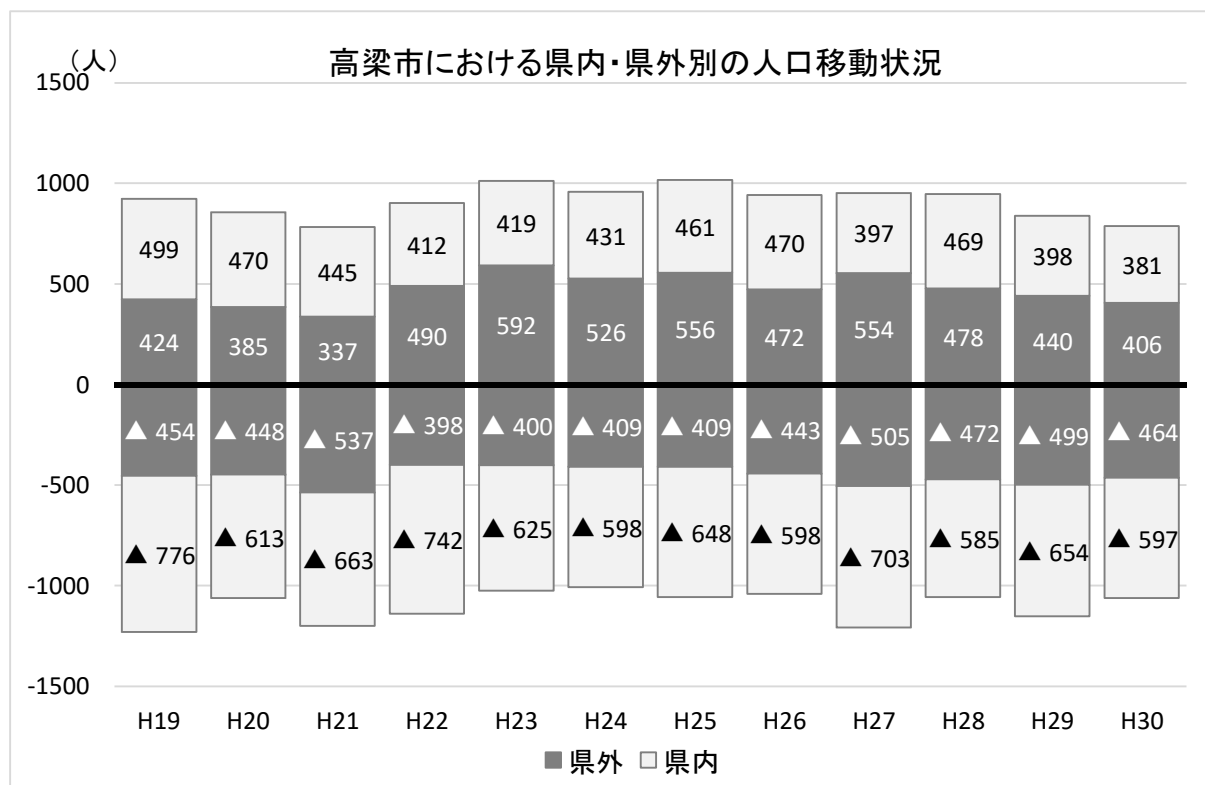
本市における年齢別の人口移動については、10歳代から30歳代にかけて転入・転出の動きが大きい。特に20～30歳代での転出超過が大きく、進学や就職を契機とした転出が多いことがうかがえる。一方で10歳代は転入超過となっており、吉備国際大学への入学による転入が大きく影響していると推察される。

転入・転出の状況を2014年と2019年とで比較すると、20歳代の移動が転入・転出とも増加しており、移動人口にとって重要な年代であることが分かる。

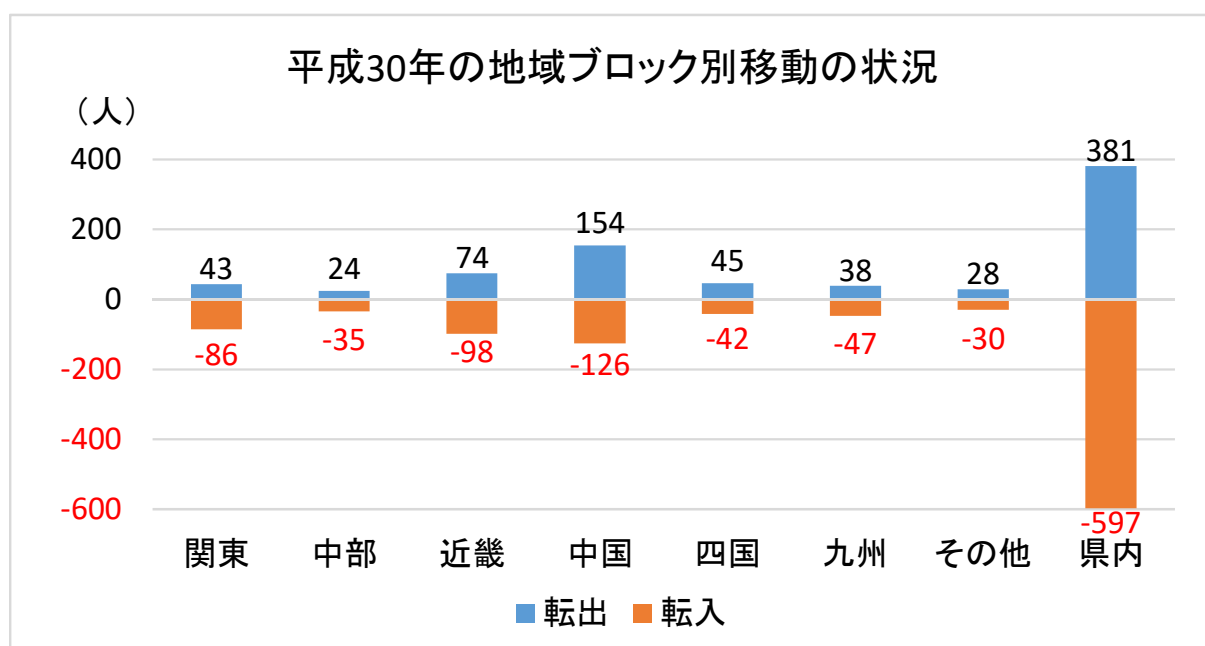


地域別の人口移動状況については、転入、転出のいずれも県内での移動が最も多く、転入については約 5 割、転出については約 6 割程度を占めている。県内での人口移動は一貫して転出超過となっている。

県外では、中国ブロック、近畿ブロックでの人口移動が多く、中国・四国ブロックでは、転入超過の状況にある。



出典)岡山県統計年報



出典)岡山県統計年報

4. 高梁市における人口移動の状況

(1) 通勤・通学の状況

① 高梁市内への通勤・通学人口

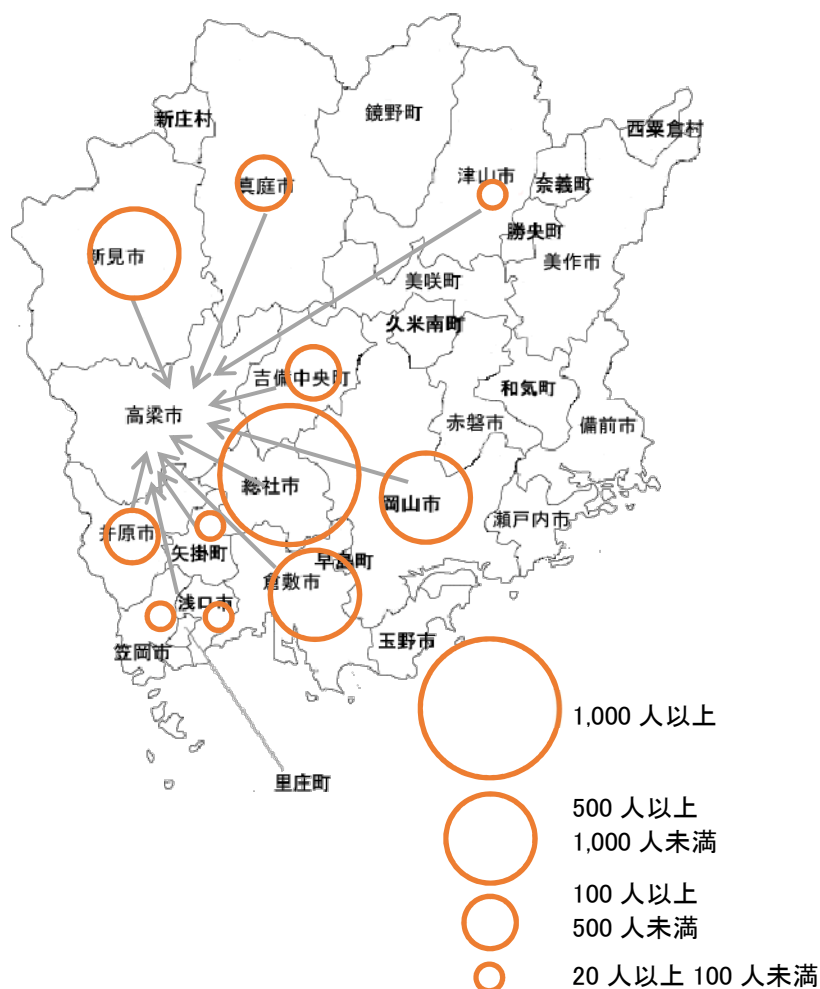
他市町村に常住し本市へ通勤・通学している人は、平成 27 年に 4,760 人であり、1,175 人が総社市からである。

次いで倉敷市、新見市、岡山市からの通勤・通学者が多く、ほとんどが県内からであるが、広島県福山市からも 75 人の通勤・通学者がみられる。

● 高梁市への通勤・通学者数

	(人)
総社市	1,175
倉敷市	654
新見市	639
岡山市	614
吉備中央町	464
真庭市	443
井原市	226

出典) 国勢調査(平成27年)



② 高梁市内からの通勤・通学人口

本市に常住して他市町村に通勤・通学する人は平成 27 年に 2,589 人であり、岡山市及び総社市へ 500 人以上が通っている。

次いで倉敷市、吉備中央町、新見市への通勤・通学者が多くなっている。

● 高梁市からの通勤・通学者数

	(人)
岡山市	555
総社市	516
倉敷市	442
吉備中央町	320
新見市	258
真庭市	121
井原市	114

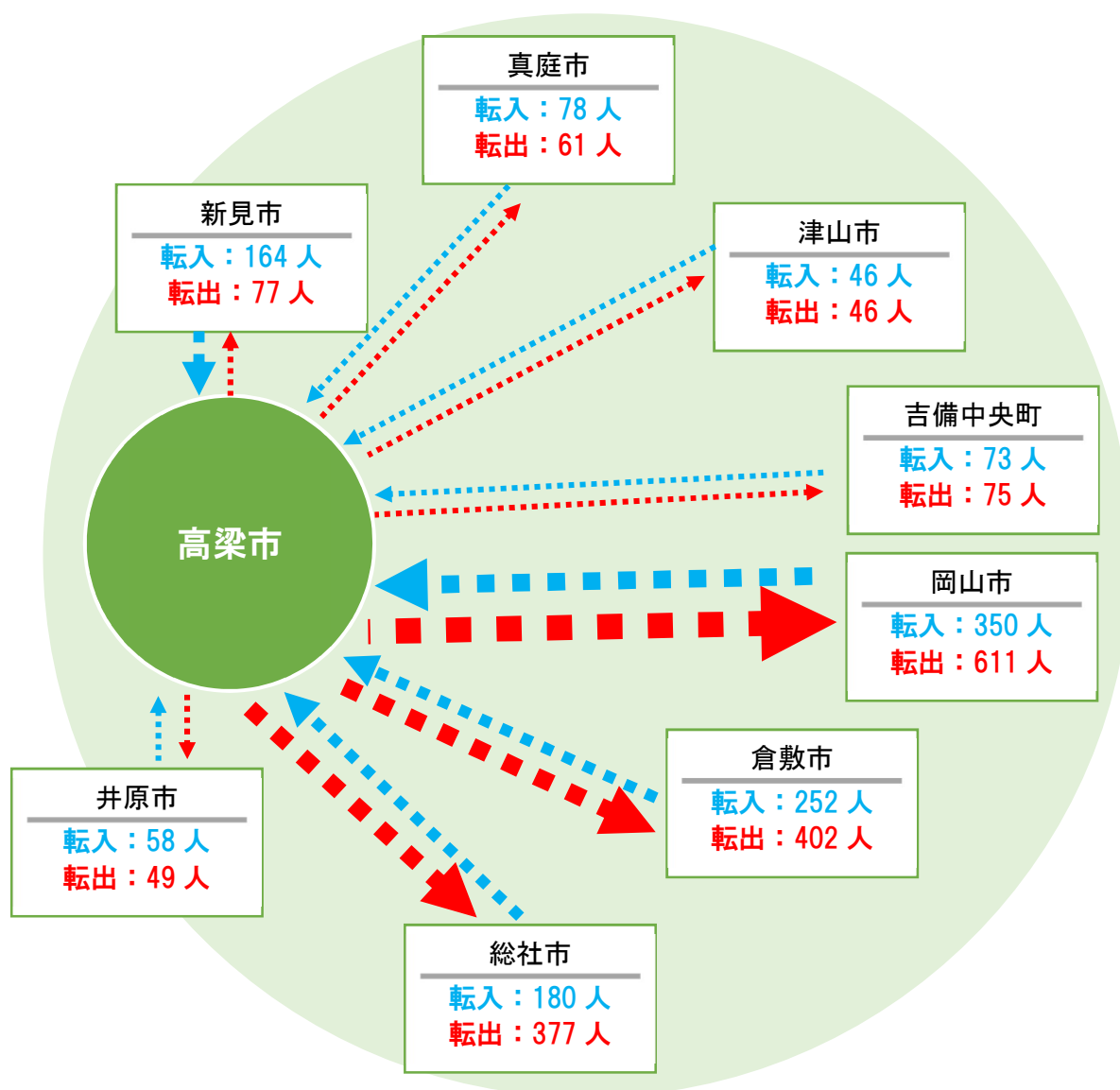
出典) 国勢調査(平成27年)



(2) 高梁市における主な県内移動(転入・転出)

本市と県内他市町村との移動では、新見市、真庭市、井原市との移動が転入超過となっており、新見市からの転入が比較的多くなっている。

一方、岡山市、倉敷市、総社市、吉備中央町との移動では転出超過となっており、とりわけ岡山市へは 261 人の転出超過と際立っている。総社市へは 197 人、倉敷市へは 150 人の転出超過となっており、人口が集積する県南部へ向けての転出が多くを占めている。



出典) 国勢調査(平成 27 年)

Ⅱ. 人口の将来展望

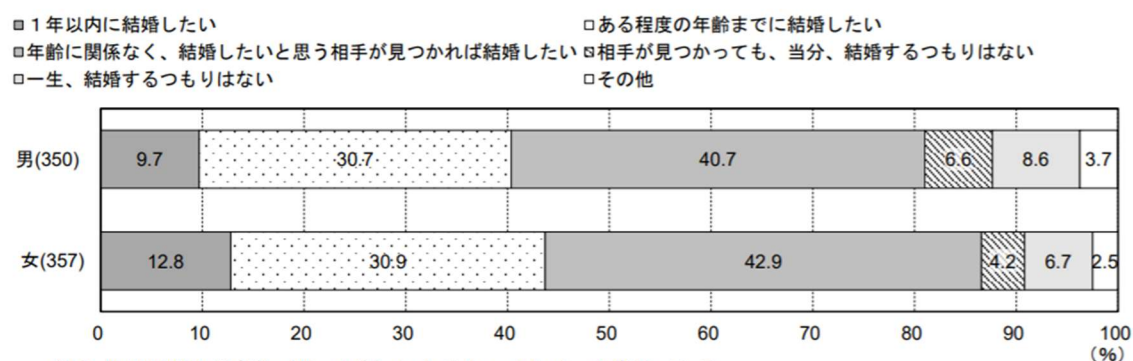
1. めざすべき将来の姿の基礎となる市民の希望等

(1) 結婚・出産・子育てに関する意識

①結婚・出産・子育てに関する岡山県民意識調査

岡山県が実施した「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査(平成 31 年 3 月)」によれば、一般未婚者の結婚意欲について、「1年以内に結婚したい」「ある程度の年齢までには結婚したい」「年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい」を合わせると、男性 81.1%、女性 86.6%と、ともに 8 割以上が結婚の意思を持っている。

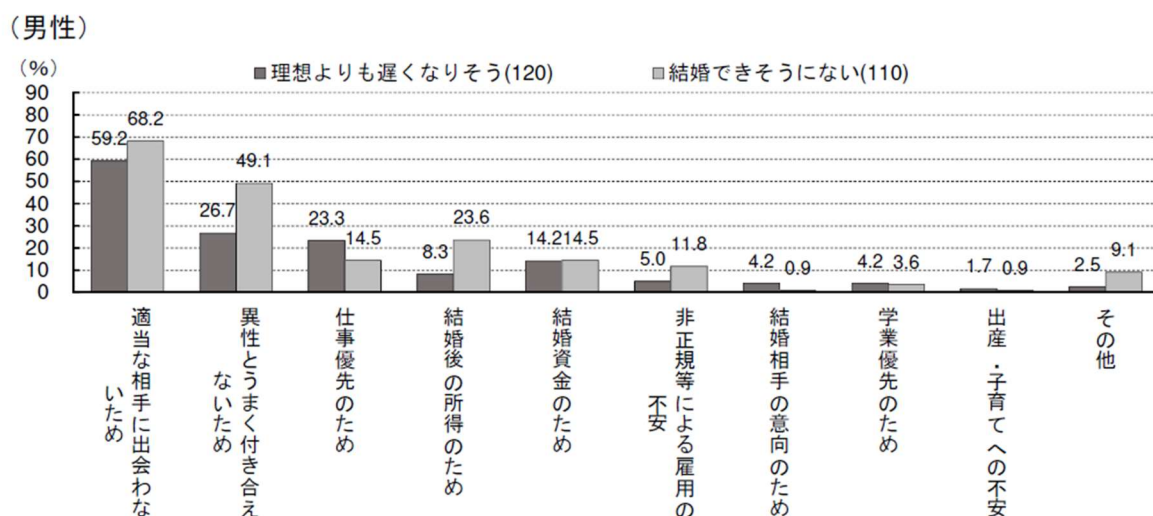
図Ⅱ－1 結婚についての考え(未婚者、単数)



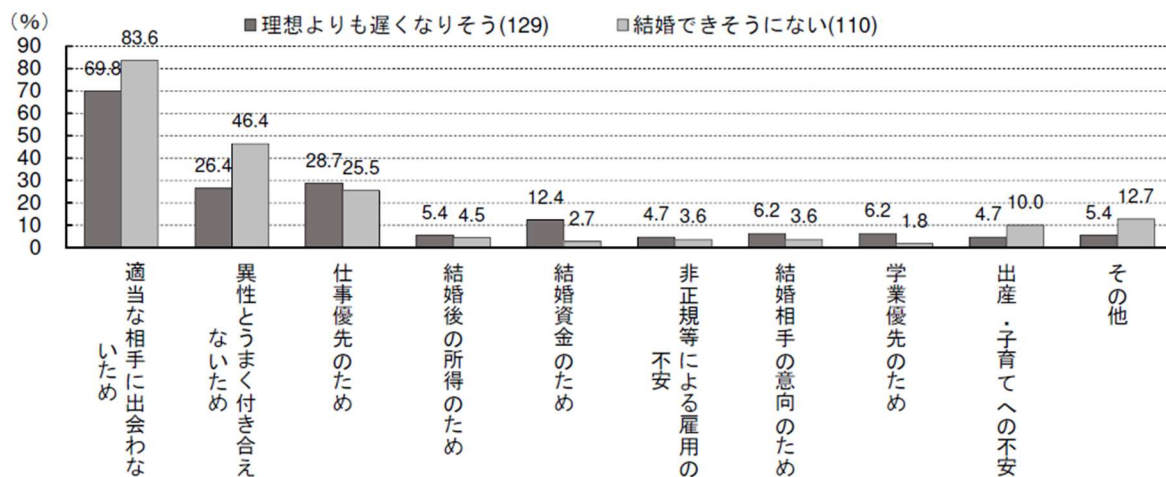
出典)岡山県「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査(平成 31 年 3 月)」

結婚希望が実現しない理由として、「適当な相手に出会わないため」が最も多く、一般未婚者の男性では 60%以上、女性では 70%以上にのぼる。次いで、「異性とうまく付き合えないため」「仕事優先のため」が続いている。

図Ⅱ－16 結婚見通し別にみた希望が実現しない理由(未婚者、複数)

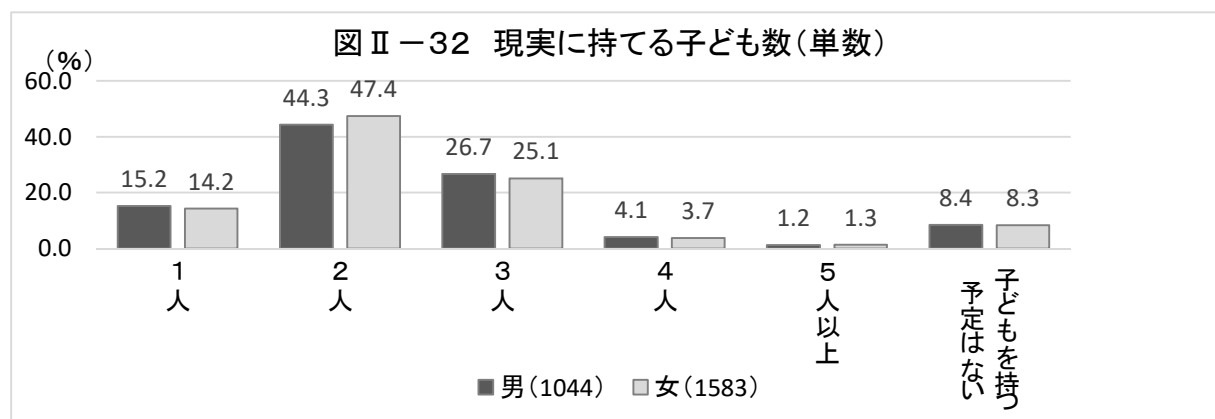
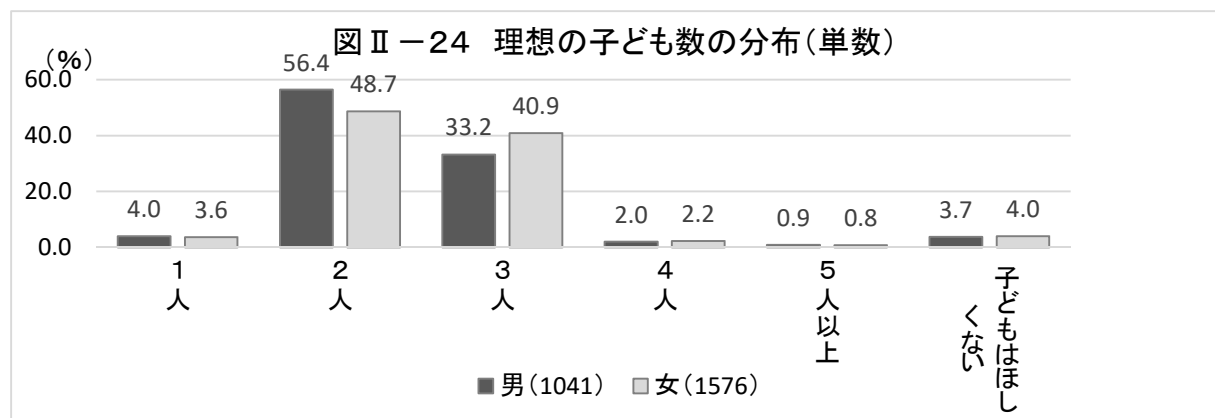


(女性)



出典)岡山県「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査(平成 31 年 3 月)」

岡山県の調査によると、平均理想子ども数は男性で 2.30 人、女性で 2.39 人に対し、平均予定子ども数は男性で 2.06 人、女性で 2.06 人であり、理想どおりの子供を持つことができていない状況となっている。

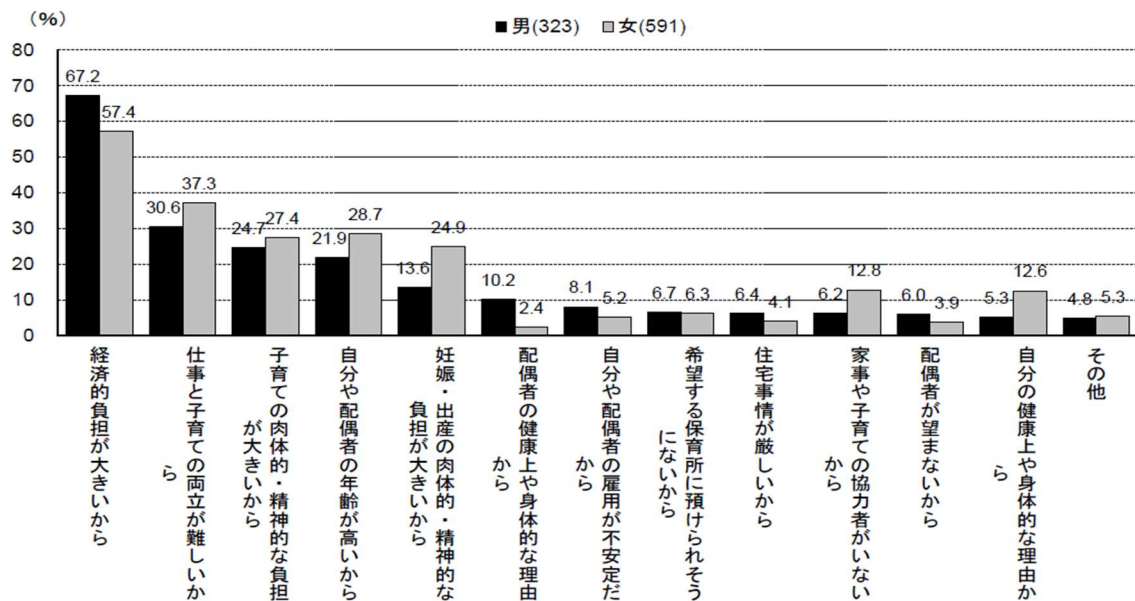


出典)岡山県「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査(平成 31 年 3 月)」

岡山県の調査によると、現実には持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由としては、「経済的負担が大きいから」が男性で 67.2%、女性で 57.4%と最も多く、「仕事と子育ての両立が難しいから」が男性で 30.6%、女性で 37.3%となっている。「子育ての肉体的・精神的負担が大きいから」が男性で 24.7%、女性で 27.4%である。

子育てに関する経済的負担、肉体的・精神的負担、仕事との両立への難しさが、現実には子どもを持つ希望の実現を妨げる要因の一つになっている。

図Ⅱ－３４ 現実には持てる子ども数が理想の子ども数より少ない理由（複数）

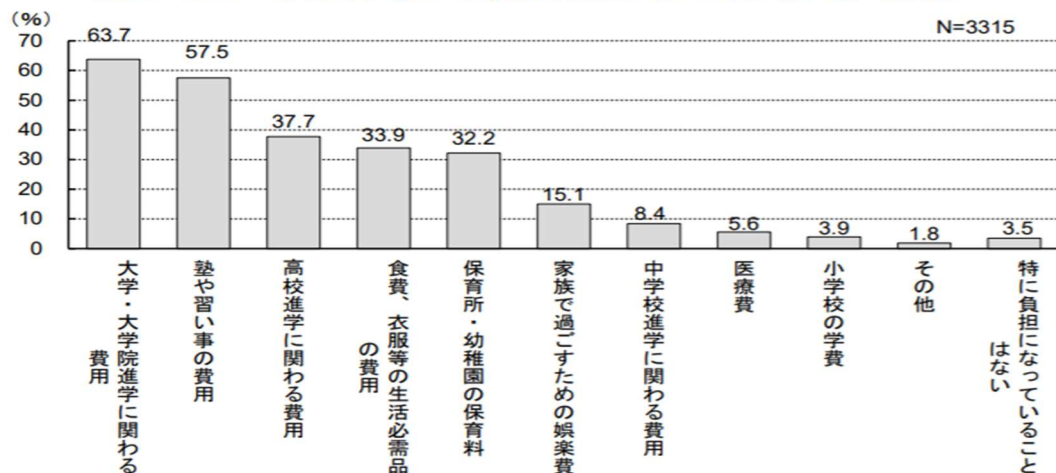


(注) 県民局別男女人口（20-49 歳）によるウエイトバック集計である

出典)岡山県「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査(平成 31 年 3 月)」

子育て世帯における家計の負担については、「大学・大学院進学に関わる費用」が 63.7%、「塾や習い事の費用」が 57.5%と、教育に対する負担が大きいと感じている。

図Ⅲ－２６ 子育てにおいて家計の負担になっていること（複数）



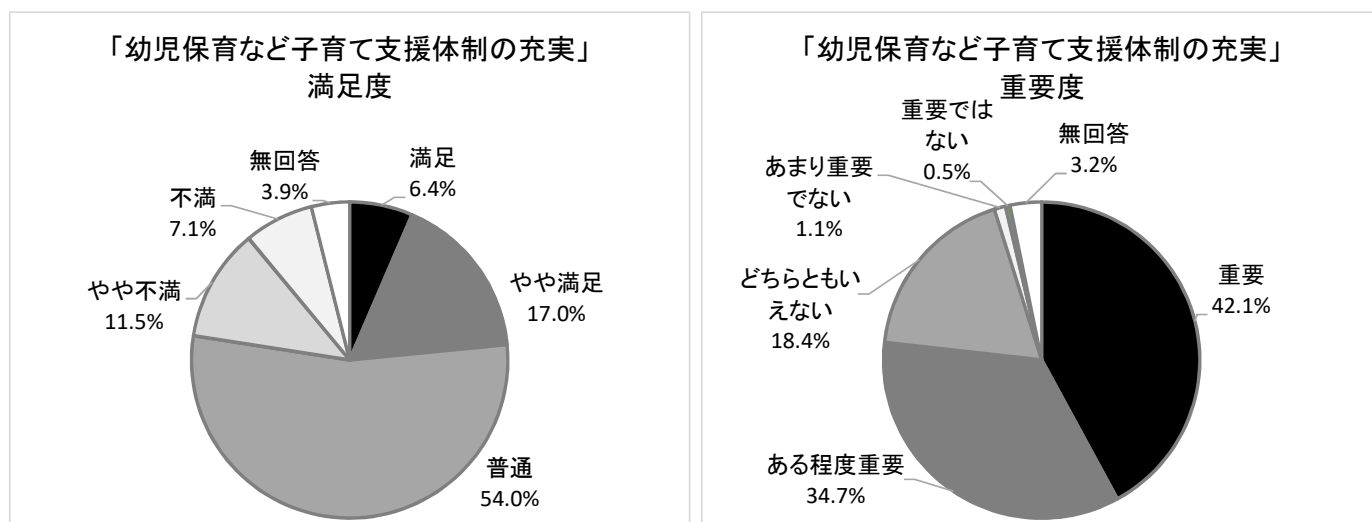
(注) 1. 県民局別の「最年少の子どもが 9 歳までの世帯数」によるウエイトバック集計である
2. 子どもが成長した将来の予想を含む

出典)岡山県「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査(平成 31 年 3 月)」

②高梁市民の子育てに関する意識調査

令和元年度に実施した「高梁市まちづくりに関する市民アンケート調査」結果によると、「幼児保育など子育て支援体制の充実」に対する市民意識は、「満足」が6.4%、「やや満足」が17.0%、「普通」が半数以上を占める。

一方、重要度に関する意識では、「重要」が42.1%、「ある程度重要」が34.7%と高い割合となっており、引き続き子育てに関する施策の充実が求められている。



子育て支援に関し充実を図って欲しいこととしては、「高梁市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(令和元年度)」において、就学前児童の保護者から、「小児医療体制の整備などの医療対策の充実(66.7%)」、「放課後児童クラブなど放課後児童対策の充実(66.6%)」、「児童館・児童遊園など親子の交流の場及び子どもの遊び場の整備(65.2%)」、「女性及び乳幼児の健康対策の充実(58.8%)」、「障害児の自立支援の充実(57.3%)」が挙げられた。

また、小学校児童の保護者が上位に挙げたのは、「小児医療体制の整備などの医療対策の充実(57.2%)」、「児童館・児童遊園など親子の交流の場及び子どもの遊び場の整備(53.9%)」、「放課後児童クラブなど放課後児童対策の充実(52.2%)」、「保育園の定員増や特別保育の整備、幼稚園の預かり保育など保育サービスの充実(47.0%)」であった。

(2) 定住・移住に関する意識

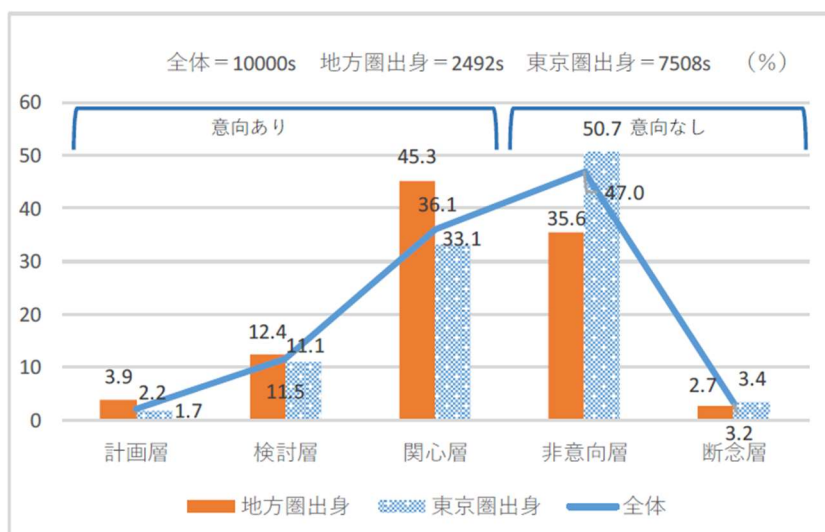
① 東京圏在住者の「東京圏以外の地域(地方圏)での暮らし」の意識調査

内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局が令和2年に1月～3月にかけて実施した「移住等の増加に向けた広報戦略立案・実施のための調査」によると、東京圏在住者(20～59歳)の49.8%が移住への関心(意向)を持っている。

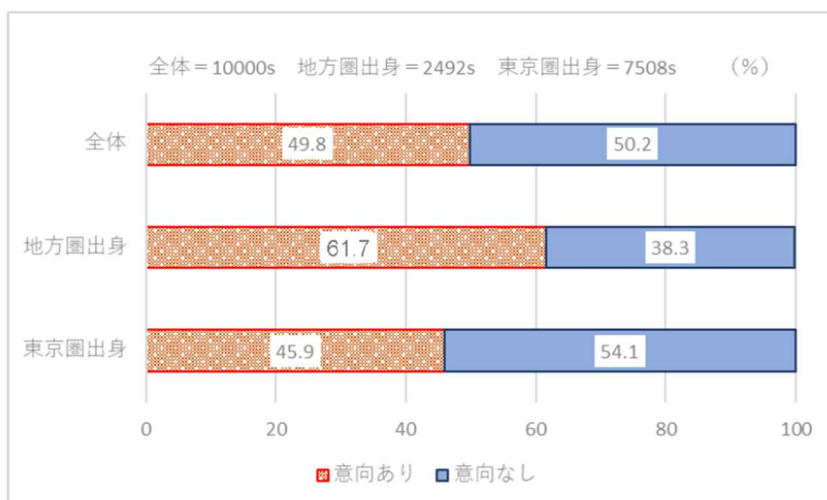
移住意向を有している人の内訳は、1年以内又は条件が整えばすぐに、ほぼ決めている地域への移住を考えている「計画層」が2.2%、地方暮らしに関心があり、情報収集活動をしている「検討層」が11.5%、地方暮らしに関心があったり気になったりしているが、何もしていない「関心層」が36.1%である。

地方出身の方が東京圏出身者より移住意向が高く、61.7%の地方出身者が移住意向ありという結果となっている。

3-2 各層の出現率



3-3 意向ありとなしの比較

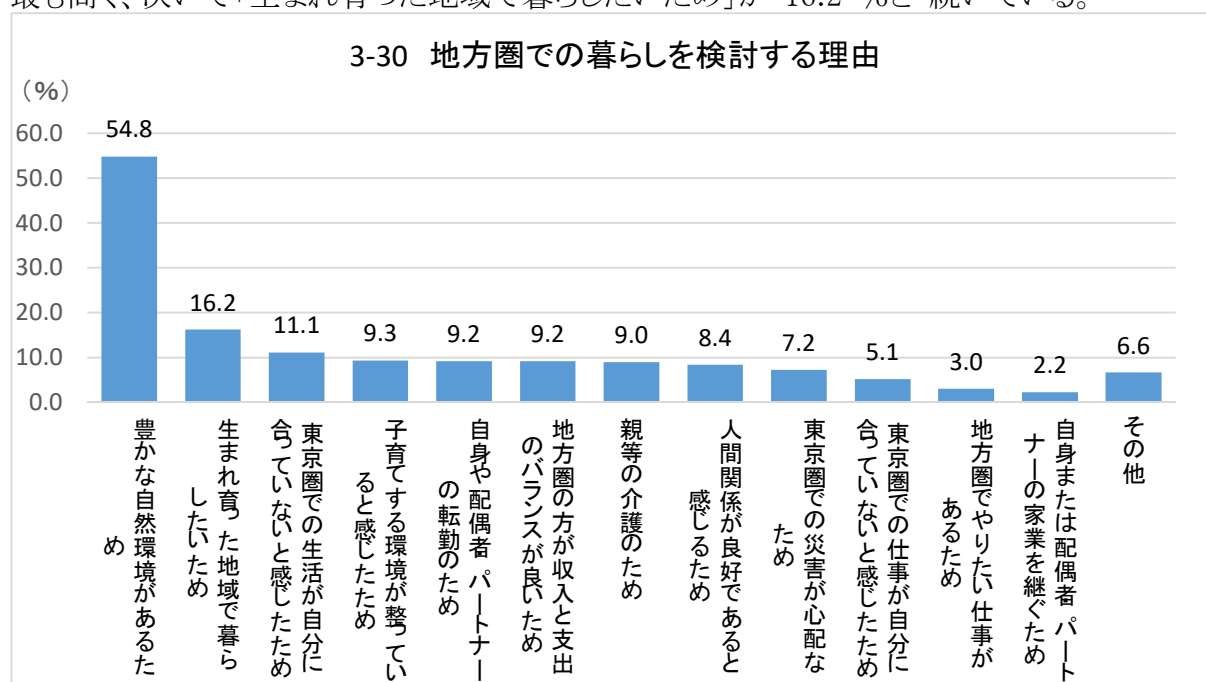


各層の平均年齢を見ると、移住意向が最も強い「計画層」の平均年齢が最も低い 35.7 歳であり、20 歳代と 30 歳代でこの層の 66.2%を占めている。「検討層」で 47.1%、「関心層」で 48.0%を占めており、移住意向が強くなるほど 20 代、30 代の割合が高くなっている。

3-5 回答者の年代

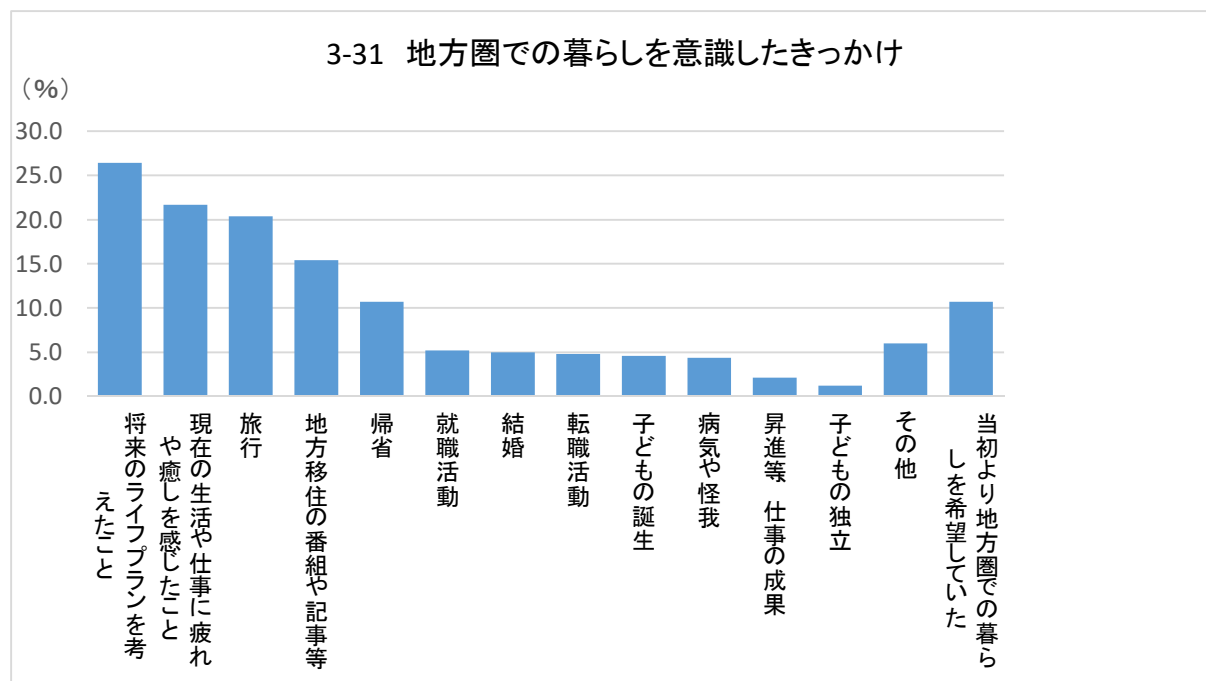
		n=				(%)	平均年齢
		■ 20-29歳 ■ 30-39歳 ■ 40-49歳 ■ 50-59歳					
TOTAL	TOTAL	10000	20.5	25.8	30.8	23.0	40.6
	計画層	222	37.8	28.4	22.5	11.3	35.7
	検討層	1147	22.2	24.9	28.9	24.0	40.4
	関心層	3612	22.6	25.4	30.2	21.7	40.1
	非意向層	4697	17.4	26.0	32.3	24.3	41.3
	断念層	322	23.9	27.3	26.4	22.4	39.8
地方圏出身	TOTAL	2492	23.1	27.6	27.2	22.1	39.9
	計画層	96	33.3	32.3	22.9	11.5	36.4
	検討層	310	25.5	26.1	25.2	23.2	39.6
	関心層	1130	24.4	28.1	28.2	19.2	39.3
	非意向層	888	18.9	26.8	27.8	26.5	41.2
	断念層	68	30.9	30.9	16.2	22.1	38.0
東京圏出身	TOTAL	7508	19.6	25.1	31.9	23.3	40.8
	計画層	126	41.3	25.4	22.2	11.1	35.3
	検討層	837	21.0	24.5	30.2	24.3	40.7
	関心層	2482	21.8	24.2	31.1	22.9	40.5
	非意向層	3809	17.0	25.8	33.4	23.8	41.3
	断念層	254	22.0	26.4	29.1	22.4	40.3

地方圏での暮らしを検討する理由としては、「豊かな自然環境があるため」が 54.8 %と最も高く、次いで「生まれ育った地域で暮らしたいため」が 16.2 %と続いている。

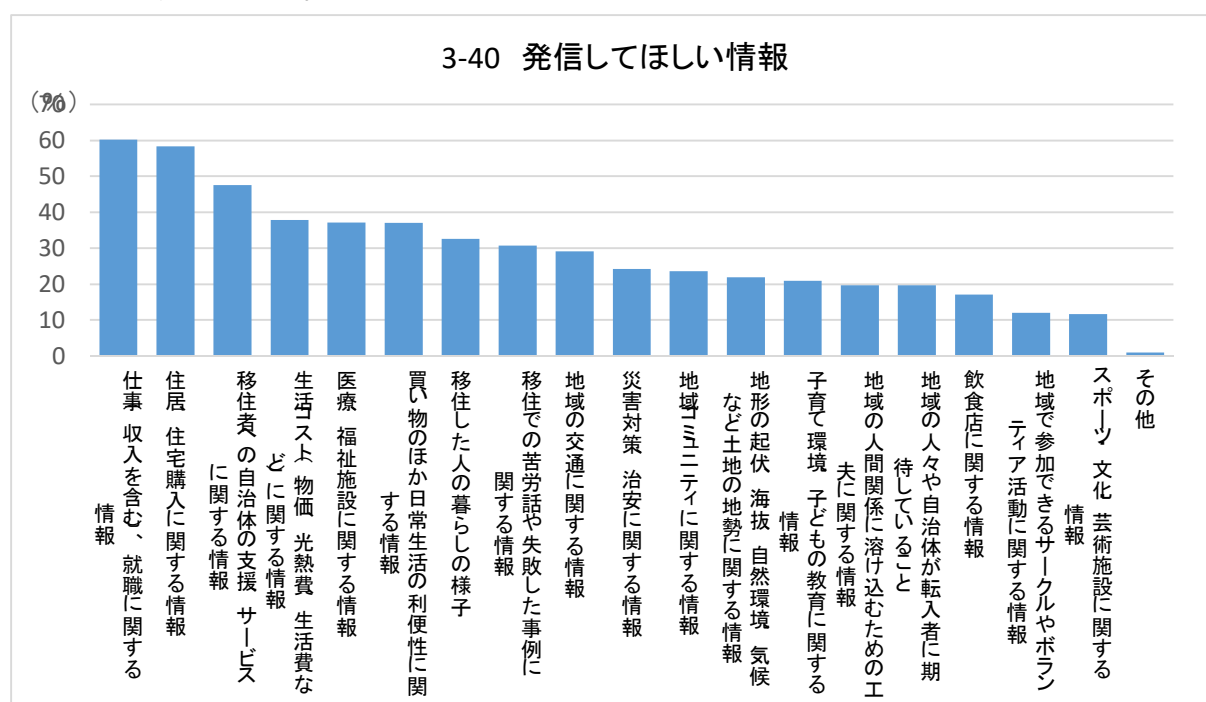


地方圏での暮らしを意識したきっかけでは、「将来のライフプランを考えたことがきっかけ」が 26.4 %と最も高く、次いで「現在の生活や仕事に疲れを感じたことがきっかけ」が 21.7%と続いており、若者のライフプランを考慮した移住対策が求められている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後更に地方移住への関心が高まることが予測されるため、テレワークの普及など暮らし方、働き方の変化や移住希望者のニーズを的確に捉えた移住対策が求められている。



移住に関する情報収集するに当たって発信してほしい情報は、「仕事(収入含む)、就職に関する情報」が 60.3 %と最も高く、次いで「住居、住宅購入に関する情報」が 58.3 %と続いている。

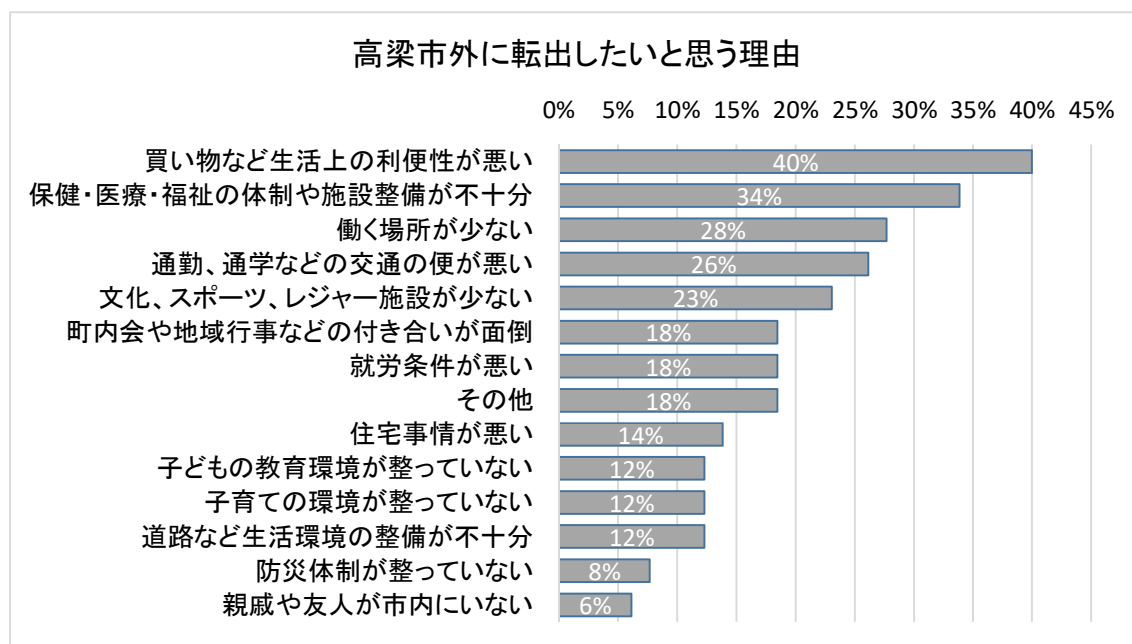
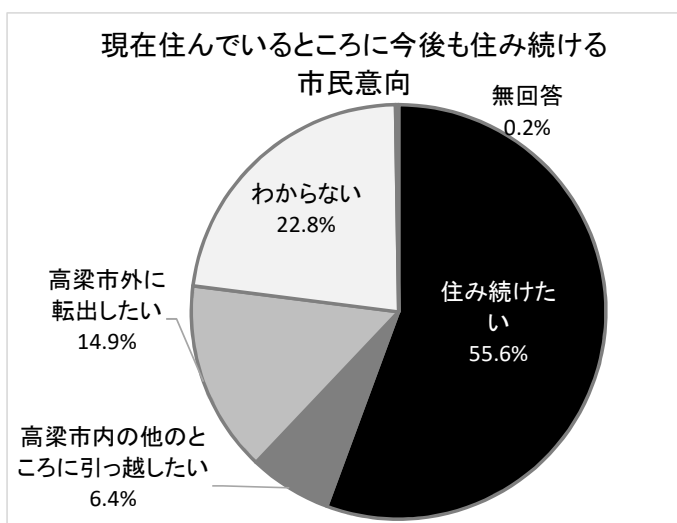


また、グループインタビューから「地方出身 20 歳代 30 歳代が地元に戻らない理由」として「コミュニティが狭すぎる」「仕事がないこと」が挙げられ、女性では、「帰りたいのに地元の価値観になじめない」という意見も報告されている。

②高梁市における市民意識調査

「高梁市まちづくりに関する市民アンケート調査（令和元年度）」結果によると、市民の 55.6% が今後も高梁市に住みたいと回答している。一方で、「高梁市外に転出したい」が 14.9%、「わからない」が 22.8% となっている。

転出したい理由としては、「買い物など生活上の利便性が悪い(40.0%)」、「保健・医療・福祉の体制や施設設備が不十分(33.8%)」、「働く場所が少ない(27.7%)」、「通勤、通学などの交通の便が悪い(26.2%)」、「文化、スポーツ、レジャー施設が少ない(23.1%)」と続いており、生活の利便性に関するものが上位を占めている。



2. めざすべき将来の方向

本市では、急速な人口減少と世界に類を見ない少子高齢化という大きな課題に直面している。また、世界規模での気候変動に起因する自然災害の多発、AI、IoT といった先端技術の急速な進展、新型コロナウイルス感染症の蔓延などが、人々の暮らしや働き方に大きな変革をもたらそうとしている。また、人の価値観も「モノ」の豊かさから「心」の豊かさへ変化してきている。

こうした社会情勢の変化に対応し、人と人とのつながりを大切に共に支え合い、豊かな自然や文化を守りながら、地域への愛着と誇りを育み、住民が健やかで幸せに暮らし続けられる高梁市の実現をめざしていく必要がある。

また、本市の人口は今後更に減少していくことが見込まれる中で、持続可能な地域社会をめざしてまちづくりを進めていくには、急激な人口減少を抑制し、地域の活力を維持していくことが重要な課題となっている。そのためには、若い世代の流出を抑制し、大都市圏等からの転入者を増加させるとともに、併せて合計特殊出生率を向上させていくことで、長期的に適正な人口構成を実現していく必要がある。

そのために、産業の振興、生活基盤の確保、医療や福祉、教育の充実など、住民の暮らし全般について総合的に取り組んでいくこととし、次のとおりめざすべきまちづくりの柱を掲げ、市民や地域団体、各種団体、企業等、まちづくりに関わる全ての関係者の力を結集して推進していく。

- (1) 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち
- (2) 美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
- (3) 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち
- (4) たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち
- (5) 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

3. 人口の将来展望（長期人口ビジョン）

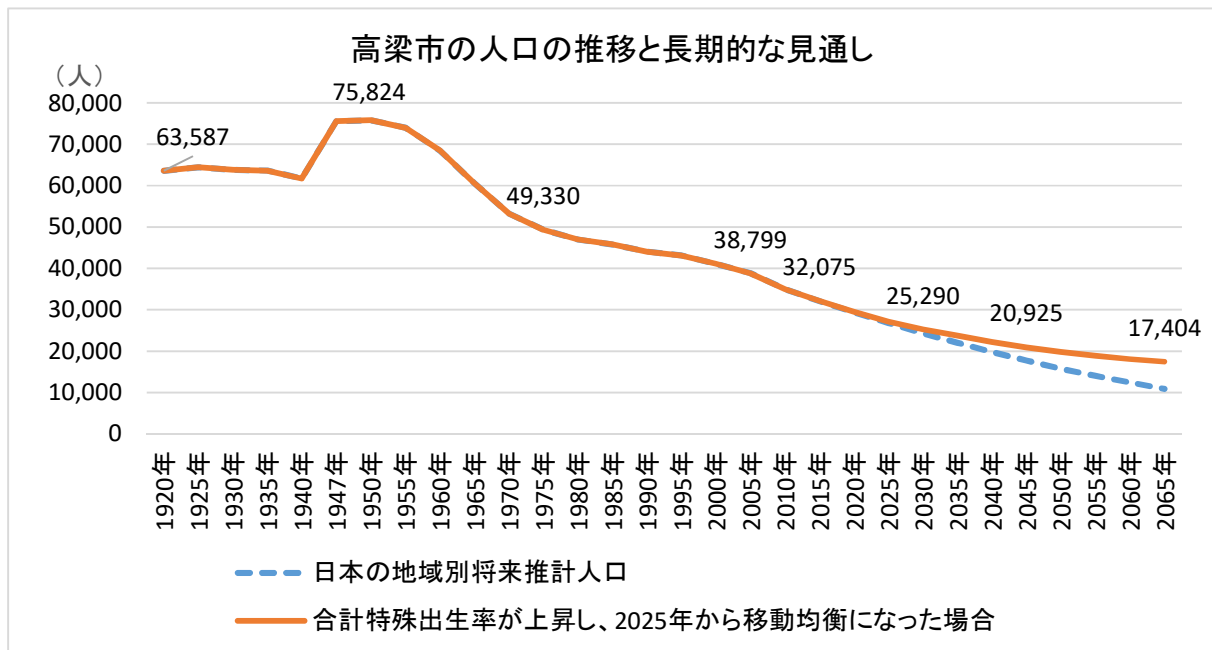
めざすべき将来の方向を達成することで、次の①～③が期待できる。

- ①合計特殊出生率が、2030(令和12)年に国の想定と同程度(1.8程度)まで向上、2040(令和22)年には、人口を維持できる水準であるとされる 2.07 程度となり、自然減に歯止めがかかる。
- ②国外移動を含む社会増減について、2025(令和7)年以降、均衡した状態が保たれる。
- ③市内各地域において、将来にわたってある程度の人口規模が確保される。

① ②により、

- ◎ 2030 年には 2 万 5 千人、2045 年には 2 万人が確保され、ゆるやかな減少をたどりながらも安定的に推移する。
- ◎ 総人口に占める年少人口(0～14 歳)の割合は、2015 年の 9.3%から、2030 年には 10.0%、2045 年には 13.2%となり、人口構造が徐々に若返っていく。

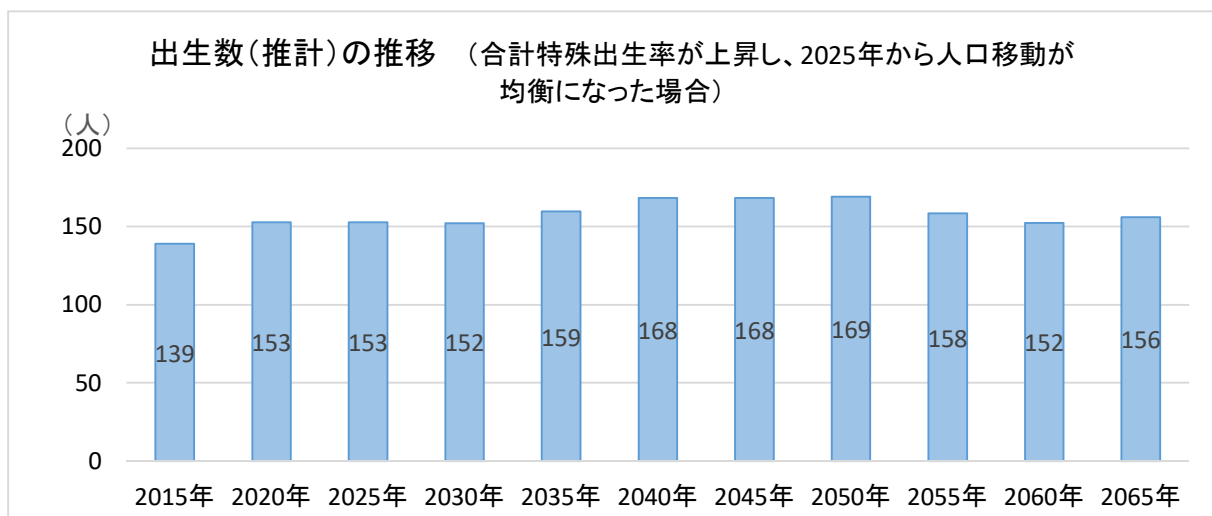
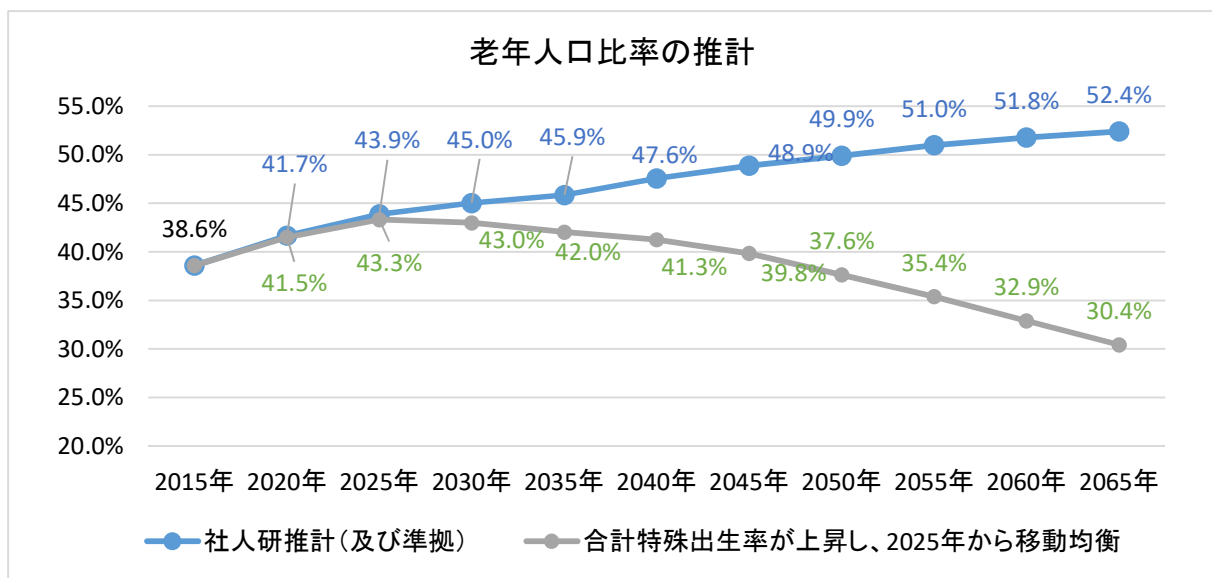
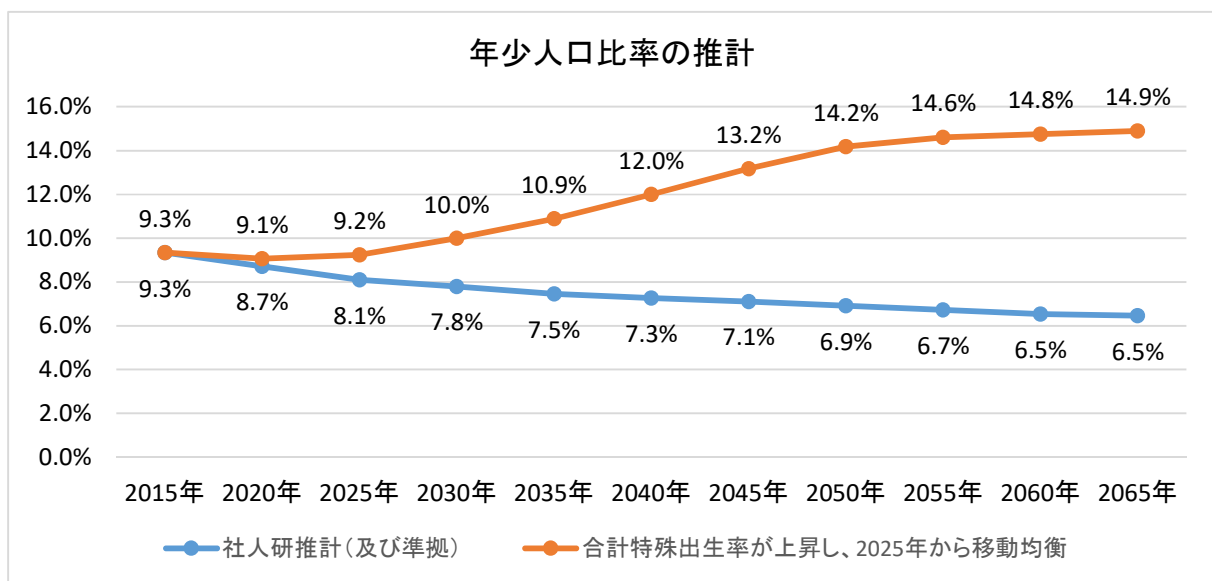
あわせて、③により、豊かな自然を保全し、これまで培われた地域固有の伝統や文化を守り伝えながら、地域への愛着と誇りを持って、心豊かに住み続けられるまちを実現できる。



(注1) 2015 年までは、「国勢調査」による。2020 年以降の点線は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成 30 年 3 月推計)」の数値(2050 年以降は準拠値)である。

(注2) 「合計特殊出生率が上昇し、2025 年から移動均衡になった場合」については、①の合計特殊出生率、及び 2025 年以降、国外移動を含む社会増減が均衡することを前提に推計している。

		総人口	0-14 歳人口	15-64 歳人口	65 歳以上人口	20-39 歳女性人口
2015 年	現状値	32,075 人	2,993 人	16,706 人	12,376 人	2,553 人
2030 年	社人研推計	24,300 人	1,893 人	11,464 人	10,943 人	1,587 人
	長期人口ビジョン	25,290 人	2,528 人	11,889 人	10,873 人	1,955 人
2045 年	社人研推計	17,670 人	1,256 人	7,776 人	8,638 人	1,045 人
	長期人口ビジョン	20,925 人	2,756 人	9,834 人	8,335 人	1,804 人
2015⇒2045 年増減率	社人研推計	△44.9%	△58.0%	△53.5%	△30.2%	△59.1%
	長期人口ビジョン	△34.8%	△7.9%	△41.1%	△32.7%	△29.3%



参考資料

地域別人口推計

2010年・2015年の国勢調査結果を
基にしたコーホート変化率法による推計

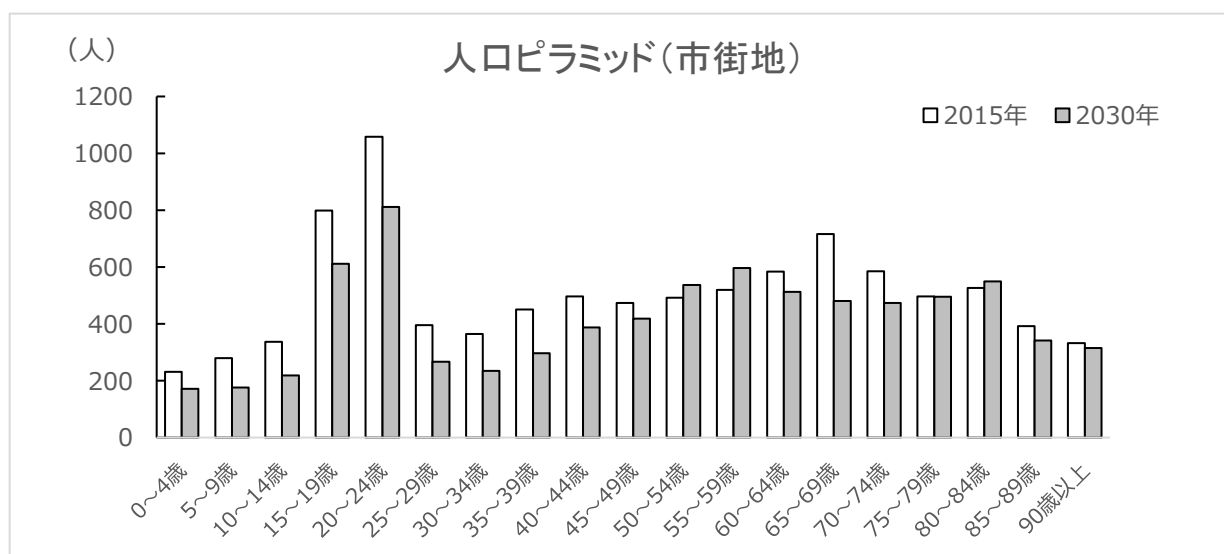
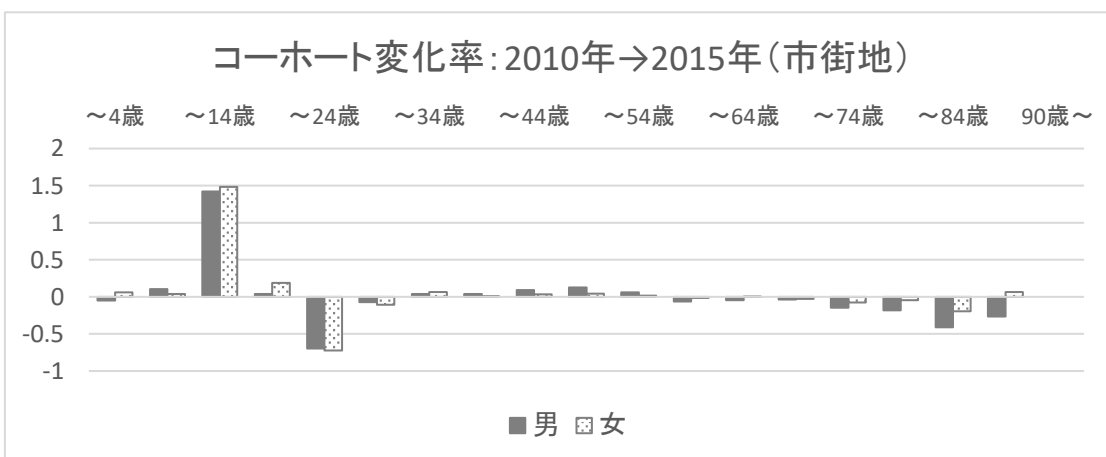
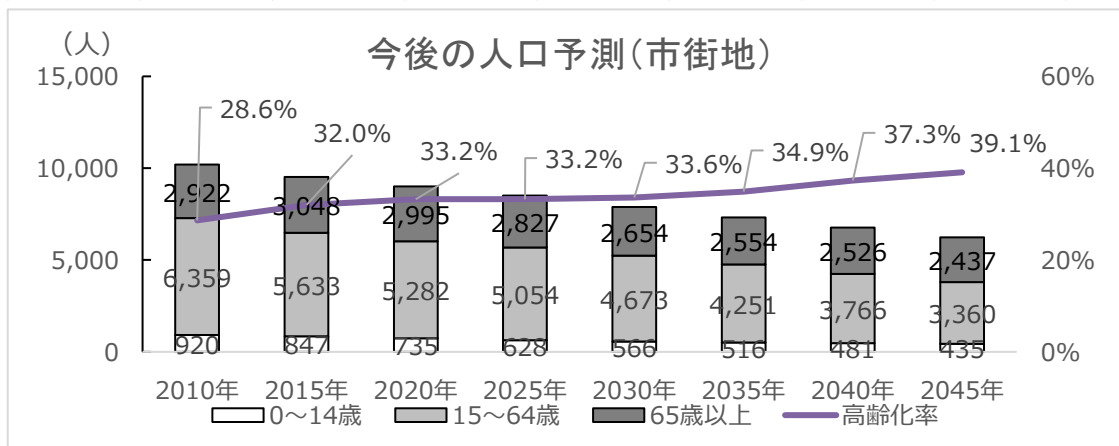
■市街地(近似・大瀬八長含む)
年齢3区分別人口の推移

単位:人

市街地	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	920	847	735	628	566	516	481	435
15～64歳	6,359	5,633	5,282	5,054	4,673	4,251	3,766	3,360
65歳以上	2,922	3,048	2,995	2,827	2,654	2,554	2,526	2,437
総数	10,201	9,528	9,012	8,509	7,893	7,321	6,773	6,232

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	9.0%	8.9%	8.2%	7.4%	7.2%	7.0%	7.1%	7.0%
15～64歳	62.3%	59.1%	58.6%	59.4%	59.2%	58.1%	55.6%	53.9%
高齢化率	28.6%	32.0%	33.2%	33.2%	33.6%	34.9%	37.3%	39.1%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■津川地域

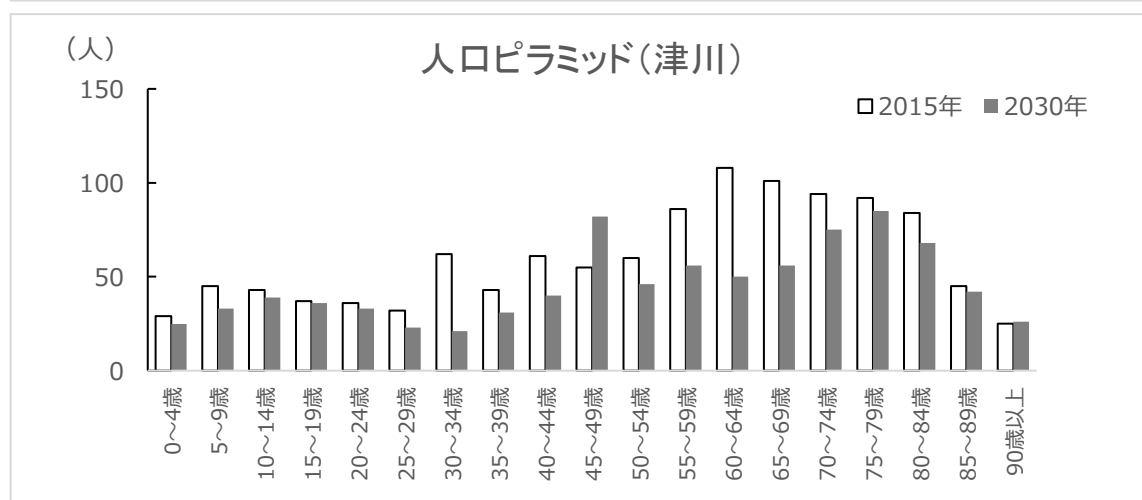
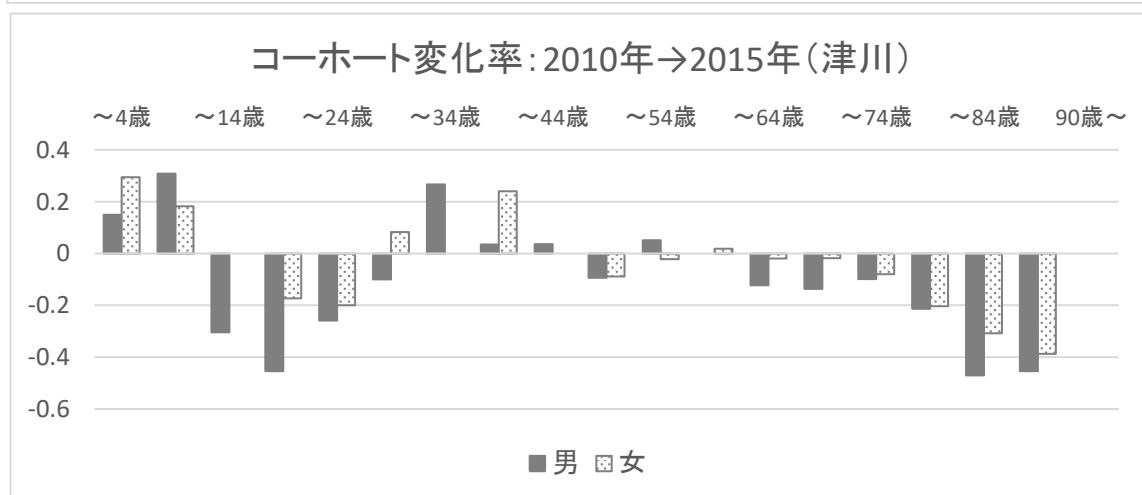
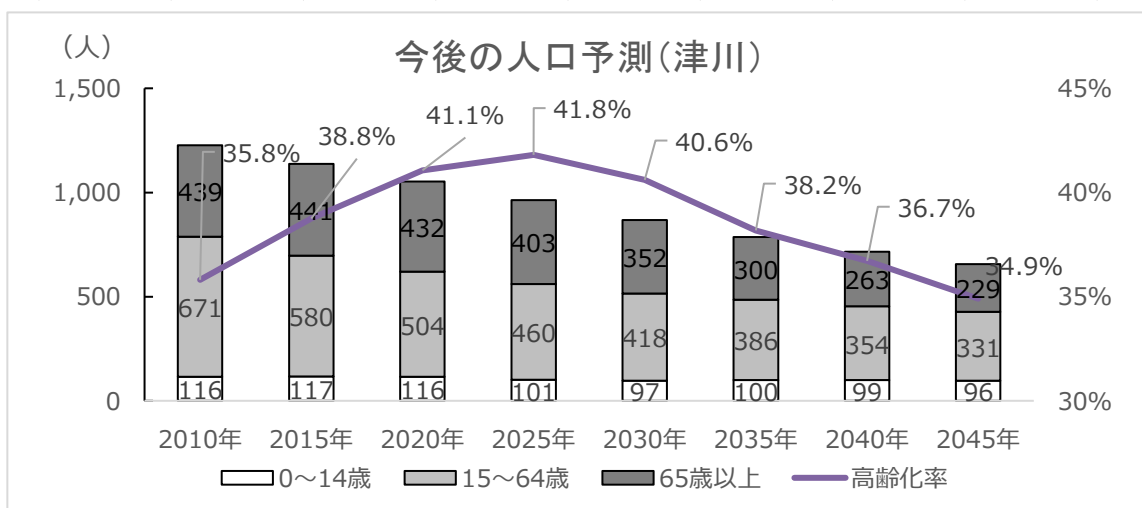
年齢3区分別人口の推移

単位:人

津川地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	116	117	116	101	97	100	99	96
15～64歳	671	580	504	460	418	386	354	331
65歳以上	439	441	432	403	352	300	263	229
総数	1,226	1,138	1,052	964	867	786	716	656

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	9.5%	10.3%	11.0%	10.5%	11.2%	12.7%	13.9%	14.6%
15～64歳	54.7%	51.0%	47.9%	47.7%	48.2%	49.1%	49.4%	50.4%
高齢化率	35.8%	38.8%	41.1%	41.8%	40.6%	38.2%	36.7%	34.9%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■川面地域

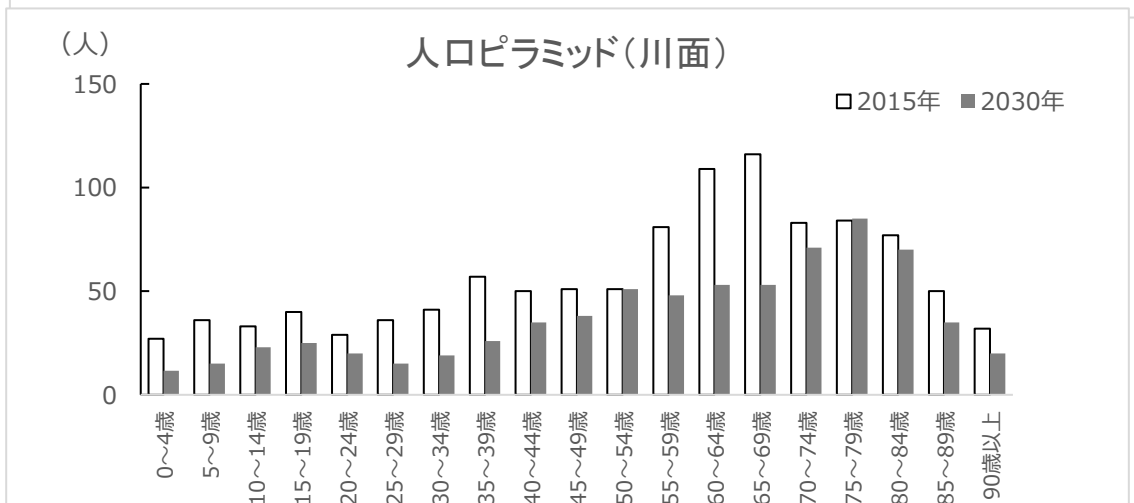
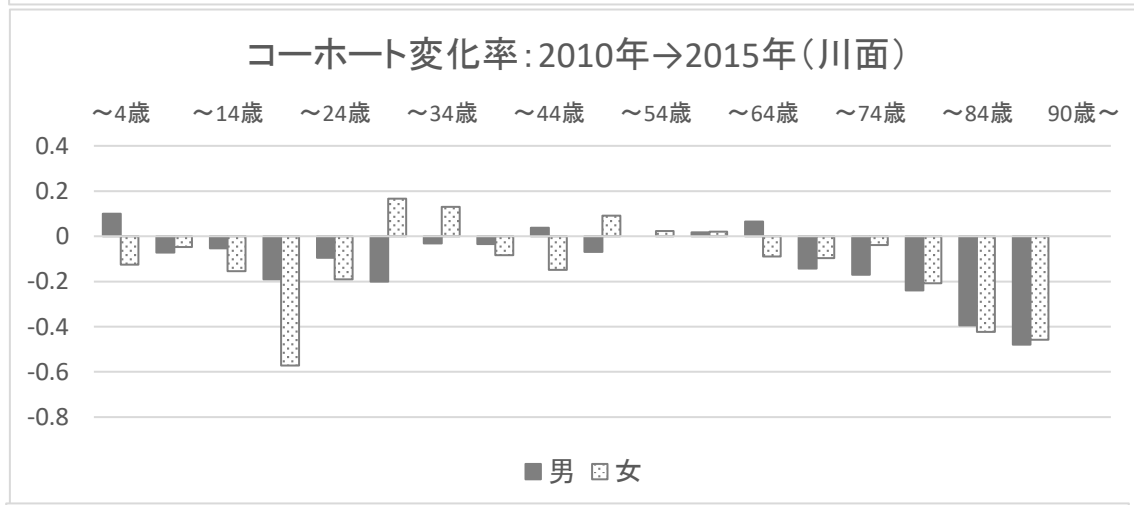
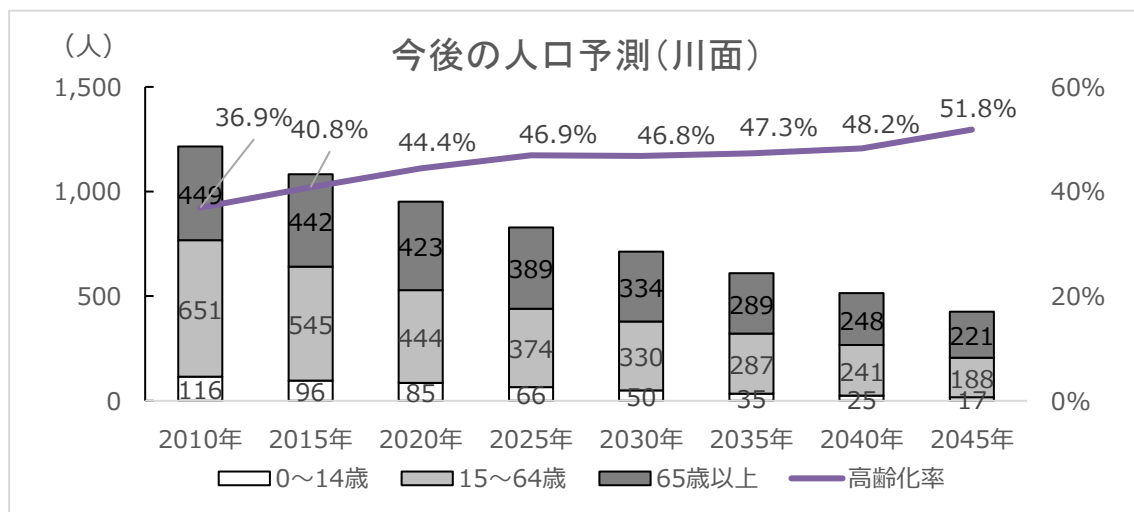
年齢3区分別人口の推移

単位:人

川面地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	116	96	85	66	50	35	25	17
15～64歳	651	545	444	374	330	287	241	188
65歳以上	449	442	423	389	334	289	248	221
総数	1,216	1,083	952	829	714	611	514	426

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	9.5%	8.9%	8.9%	8.0%	6.9%	5.7%	4.9%	4.1%
15～64歳	53.5%	50.3%	46.6%	45.1%	46.2%	47.0%	46.9%	44.1%
高齢化率	36.9%	40.8%	44.4%	46.9%	46.8%	47.3%	48.2%	51.8%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■巨瀬地域

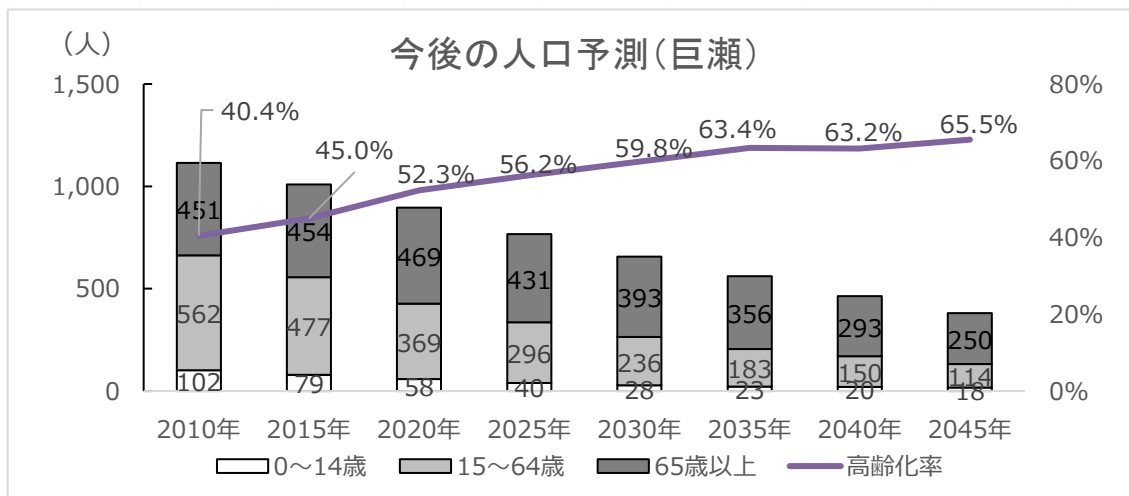
年齢3区分別人口の推移

単位:人

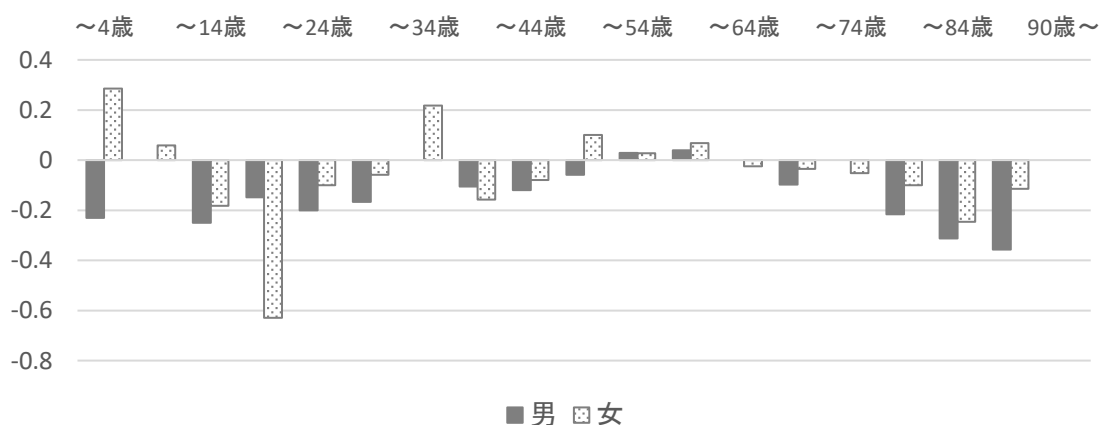
巨瀬地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	102	79	58	40	28	23	20	18
15～64歳	562	477	369	296	236	183	150	114
65歳以上	451	454	469	431	393	356	293	250
総数	1,115	1,010	896	767	657	562	463	382

年齢3区分別人口の推移

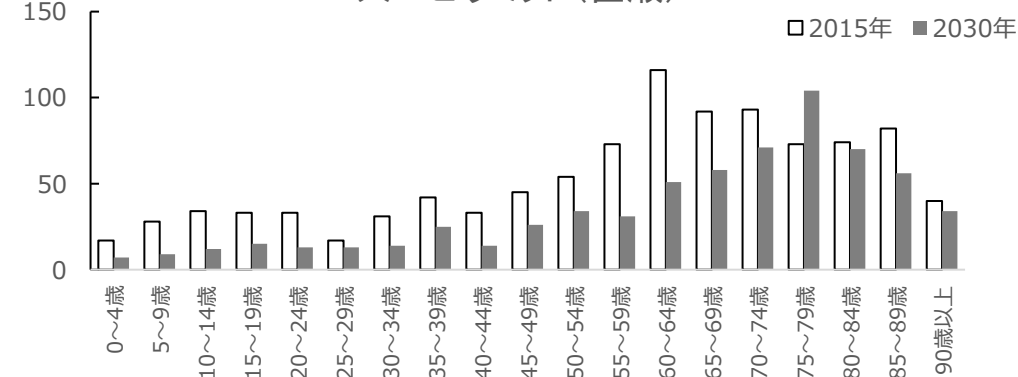
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	9.1%	7.8%	6.5%	5.2%	4.3%	4.0%	4.4%	4.6%
15～64歳	50.4%	47.2%	41.2%	38.6%	35.9%	32.6%	32.4%	29.9%
高齢化率	40.4%	45.0%	52.3%	56.2%	59.8%	63.4%	63.2%	65.5%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



コーホート変化率:2010年→2015年(巨瀬)



人口ピラミッド(巨瀬)



■中井地域

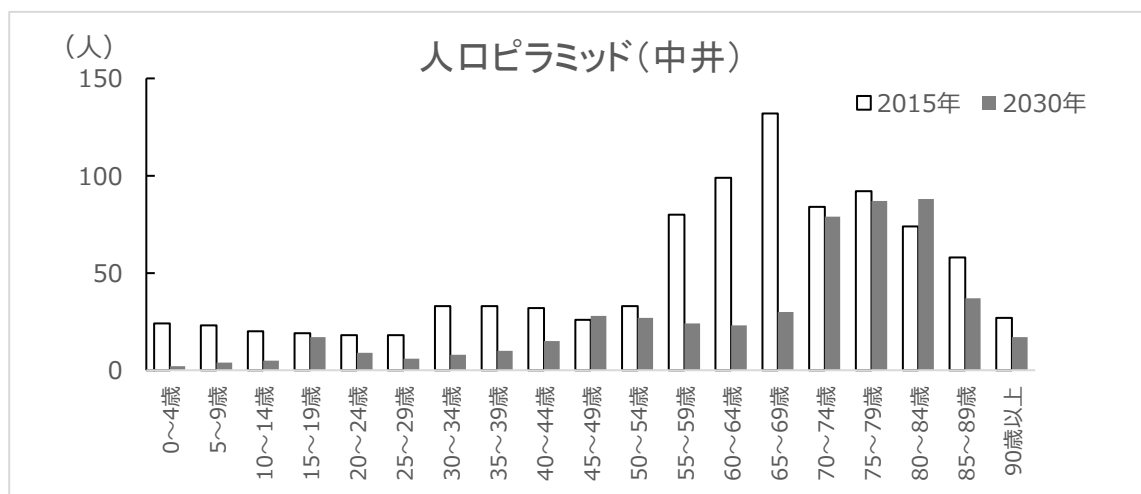
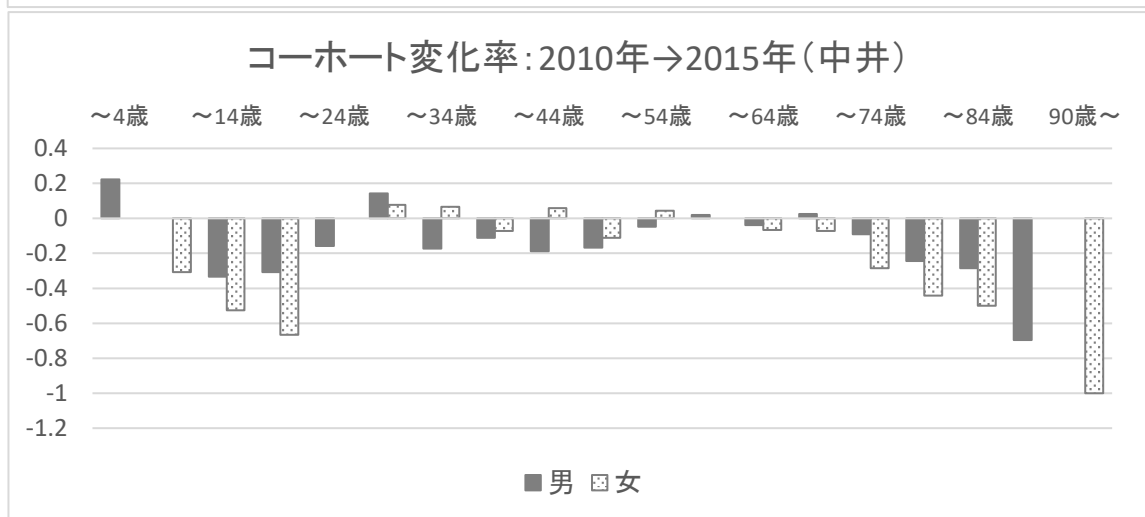
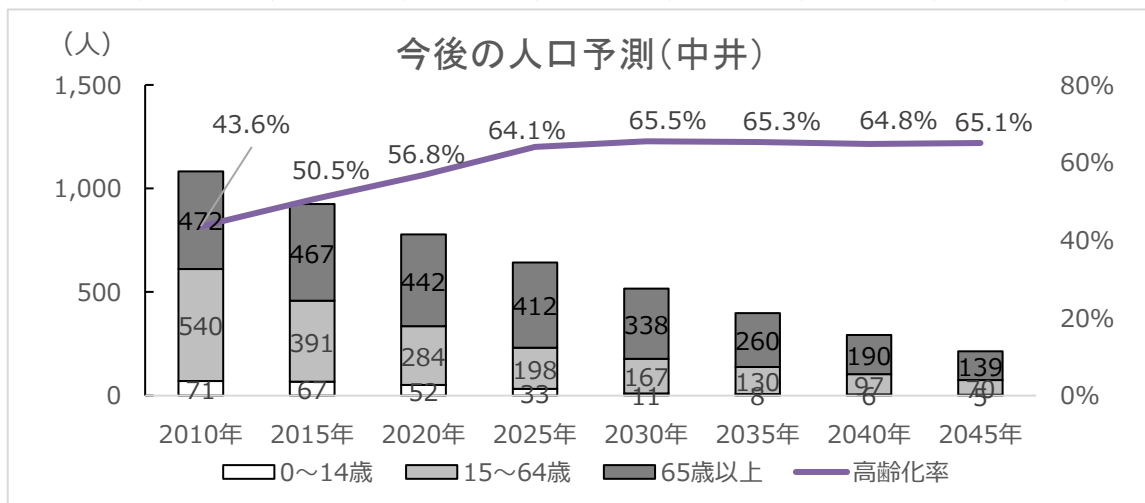
年齢3区分別人口の推移

単位:人

中井地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	71	67	52	33	11	8	6	5
15～64歳	540	391	284	198	167	130	97	70
65歳以上	472	467	442	412	338	260	190	139
総数	1,083	925	778	643	516	398	293	214

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	6.6%	7.2%	6.7%	5.1%	2.2%	2.0%	2.1%	2.1%
15～64歳	49.9%	42.3%	36.5%	30.8%	32.4%	32.7%	33.1%	32.8%
高齢化率	43.6%	50.5%	56.8%	64.1%	65.5%	65.3%	64.8%	65.1%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■玉川地域

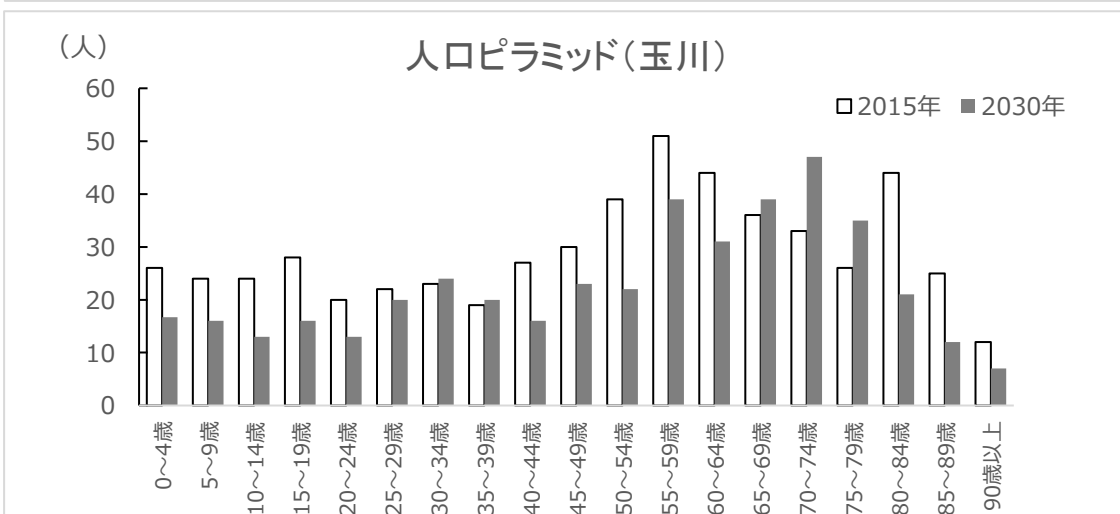
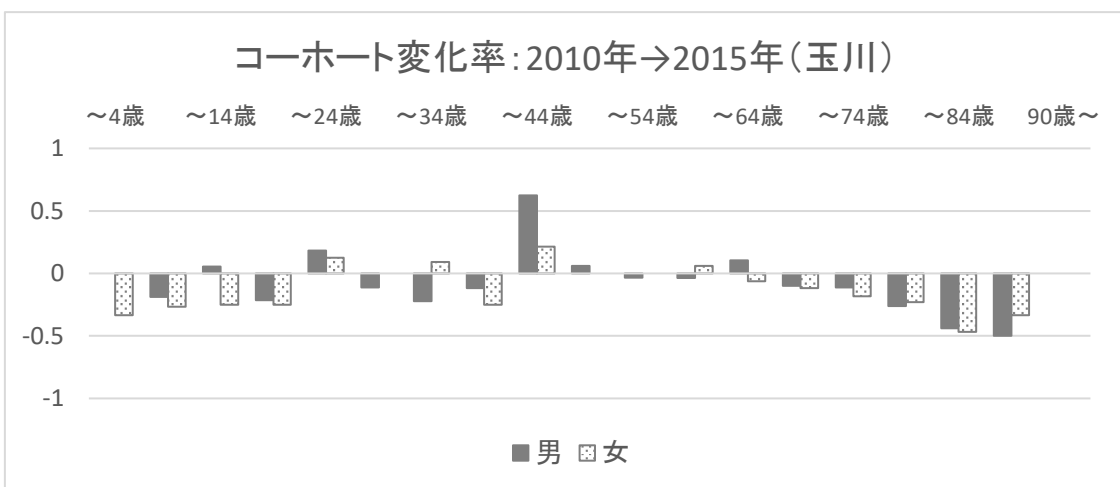
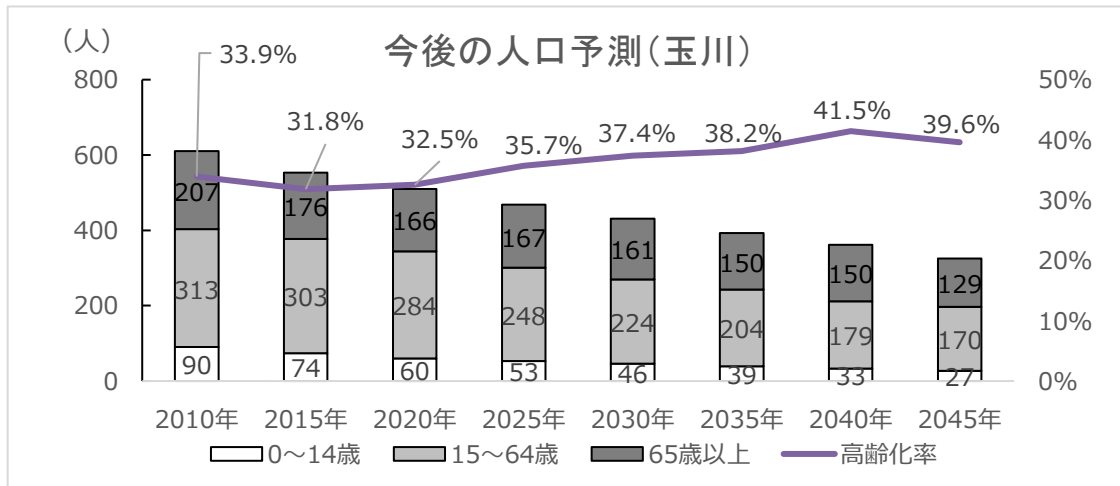
年齢3区分別人口の推移

単位:人

玉川地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	90	74	60	53	46	39	33	27
15～64歳	313	303	284	248	224	204	179	170
65歳以上	207	176	166	167	161	150	150	129
総数	610	553	510	468	431	393	362	326

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	14.8%	13.4%	11.8%	11.3%	10.6%	9.9%	9.1%	8.2%
15～64歳	51.3%	54.8%	55.7%	53.0%	52.0%	51.9%	49.5%	52.2%
高齢化率	33.9%	31.8%	32.5%	35.7%	37.4%	38.2%	41.5%	39.6%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■宇治地域

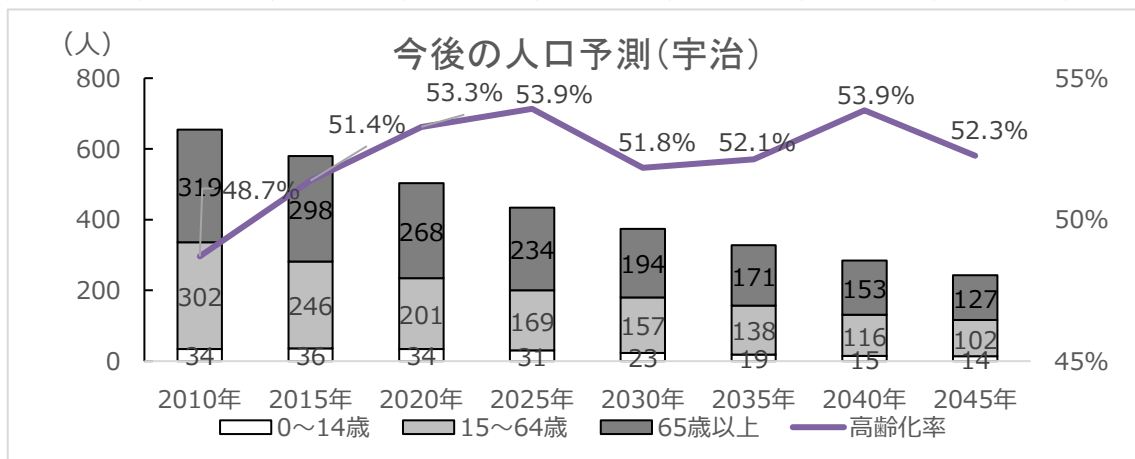
年齢3区分別人口の推移

単位:人

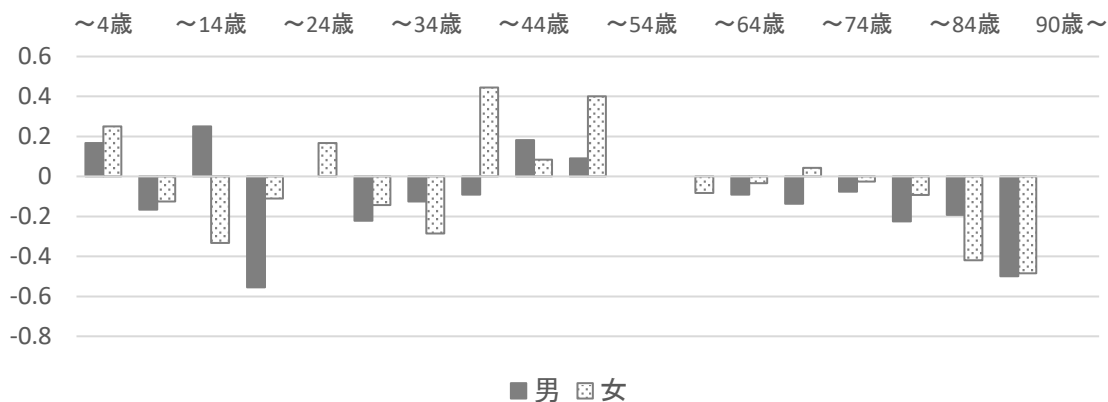
宇治地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	34	36	34	31	23	19	15	14
15～64歳	302	246	201	169	157	138	116	102
65歳以上	319	298	268	234	194	171	153	127
総数	655	580	503	434	374	328	284	243

年齢3区分別人口の推移

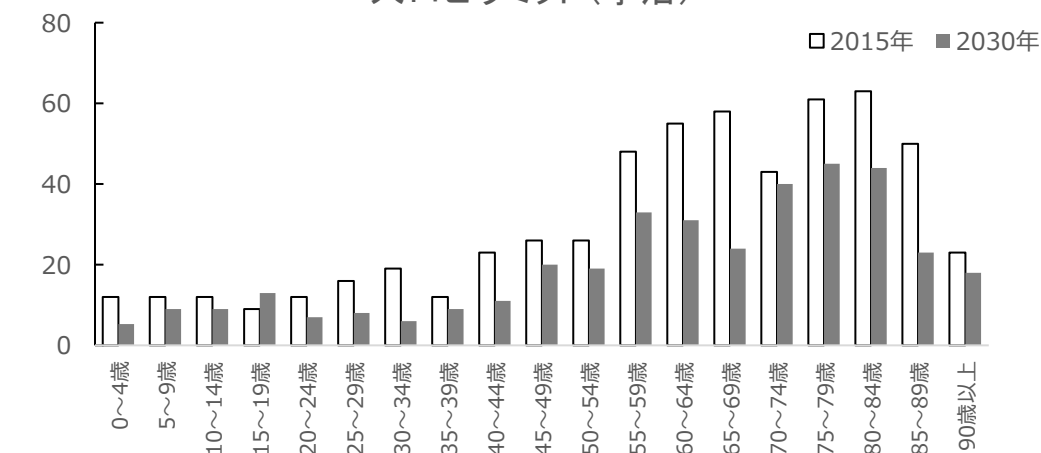
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	5.2%	6.2%	6.8%	7.1%	6.2%	5.8%	5.3%	5.8%
15～64歳	46.1%	42.4%	40.0%	38.9%	41.9%	42.1%	40.8%	42.0%
高齢化率	48.7%	51.4%	53.3%	53.9%	51.8%	52.1%	53.9%	52.3%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



コーホート変化率:2010年→2015年(宇治)



人口ピラミッド(宇治)



■松原地域

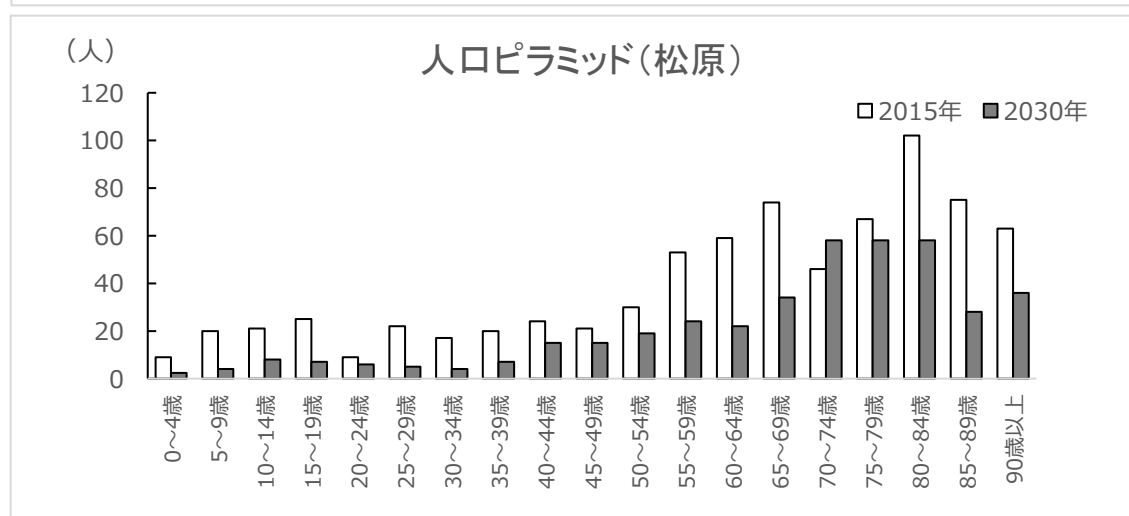
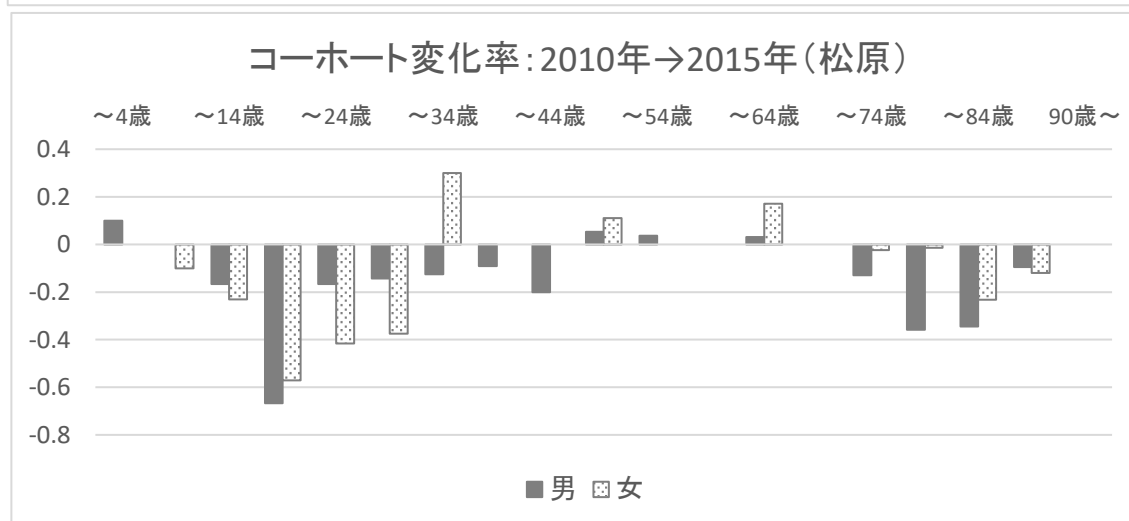
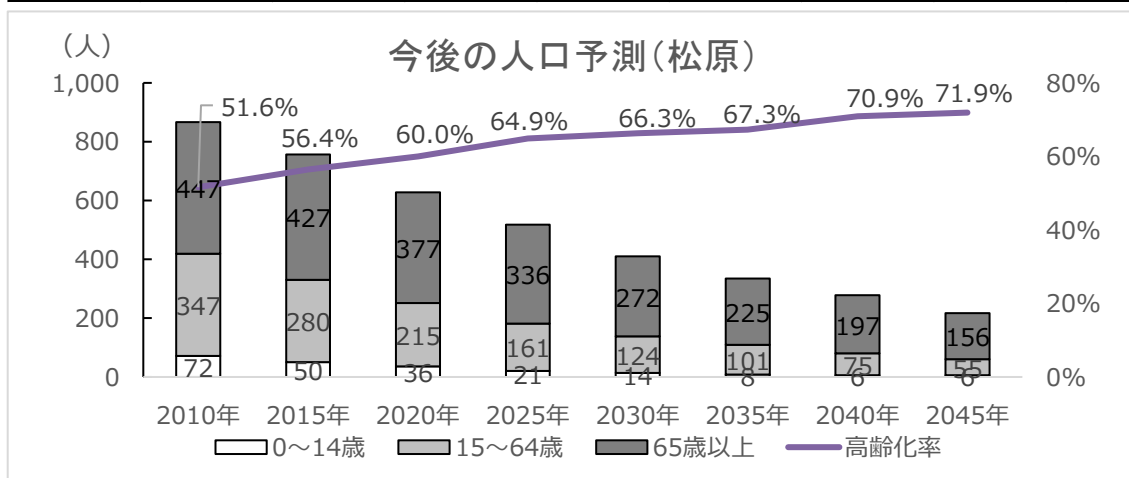
年齢3区分別人口の推移

単位:人

松原地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	72	50	36	21	14	8	6	6
15～64歳	347	280	215	161	124	101	75	55
65歳以上	447	427	377	336	272	225	197	156
総数	866	757	628	518	410	334	278	217

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	8.3%	6.6%	5.7%	4.1%	3.5%	2.5%	2.1%	2.7%
15～64歳	40.1%	37.0%	34.2%	31.1%	30.2%	30.2%	27.0%	25.4%
高齢化率	51.6%	56.4%	60.0%	64.9%	66.3%	67.3%	70.9%	71.9%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■高倉地域

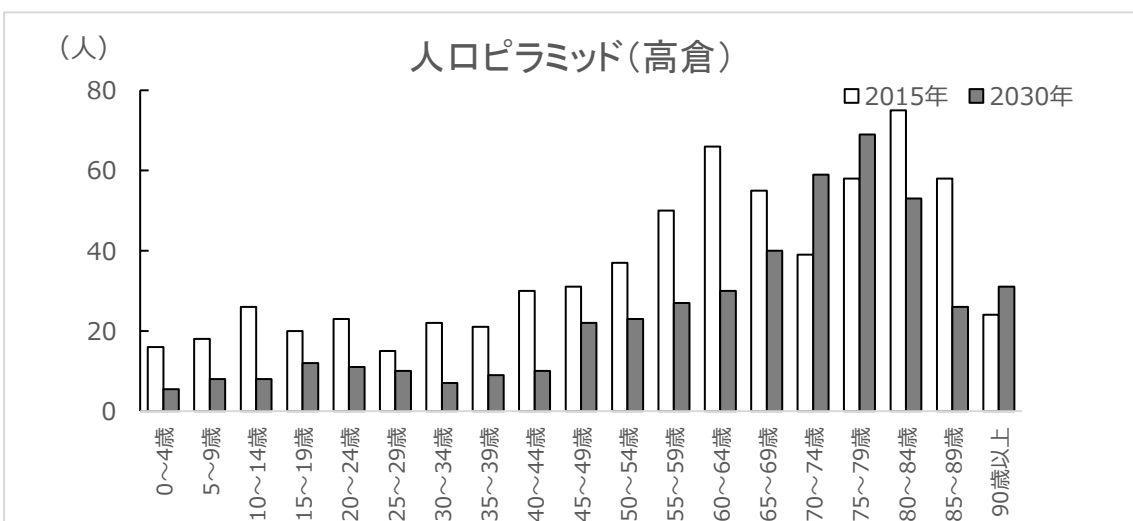
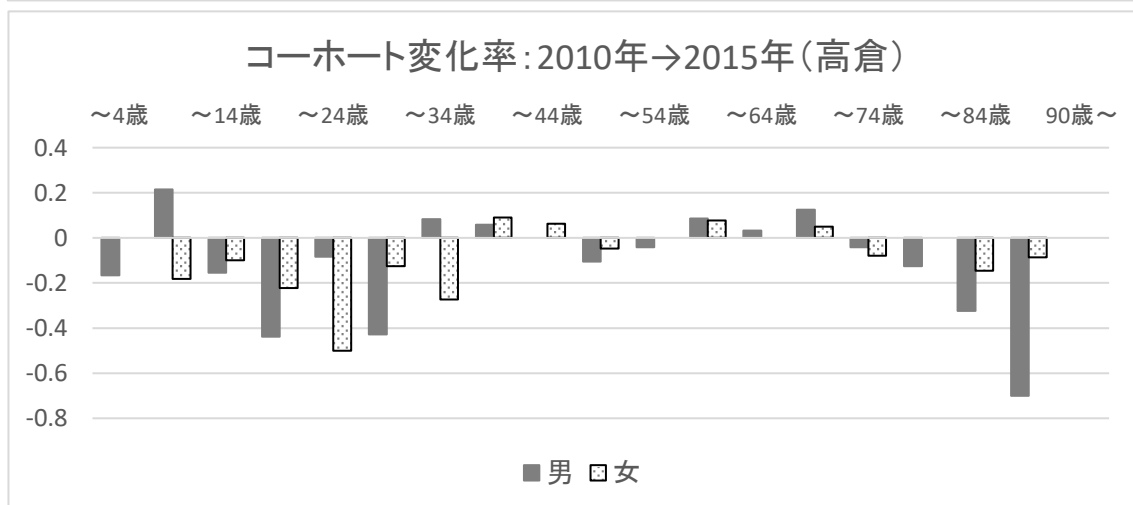
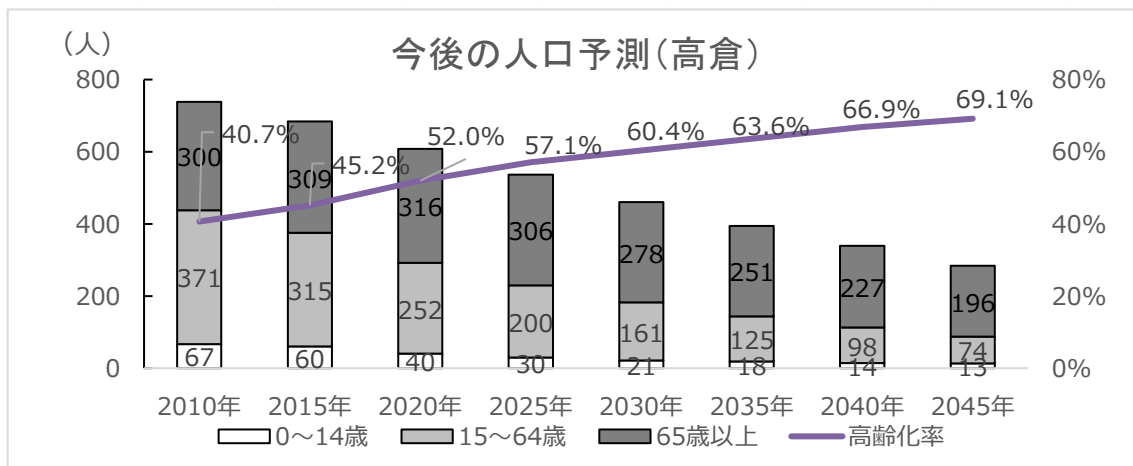
年齢3区分別人口の推移

単位：人

高倉地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	67	60	40	30	21	18	14	13
15～64歳	371	315	252	200	161	125	98	74
65歳以上	300	309	316	306	278	251	227	196
総数	738	684	608	536	460	394	339	283

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	9.1%	8.8%	6.6%	5.6%	4.7%	4.7%	4.3%	4.7%
15～64歳	50.3%	46.1%	41.4%	37.3%	35.0%	31.7%	28.9%	26.1%
高齢化率	40.7%	45.2%	52.0%	57.1%	60.4%	63.6%	66.9%	69.1%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 落合地域

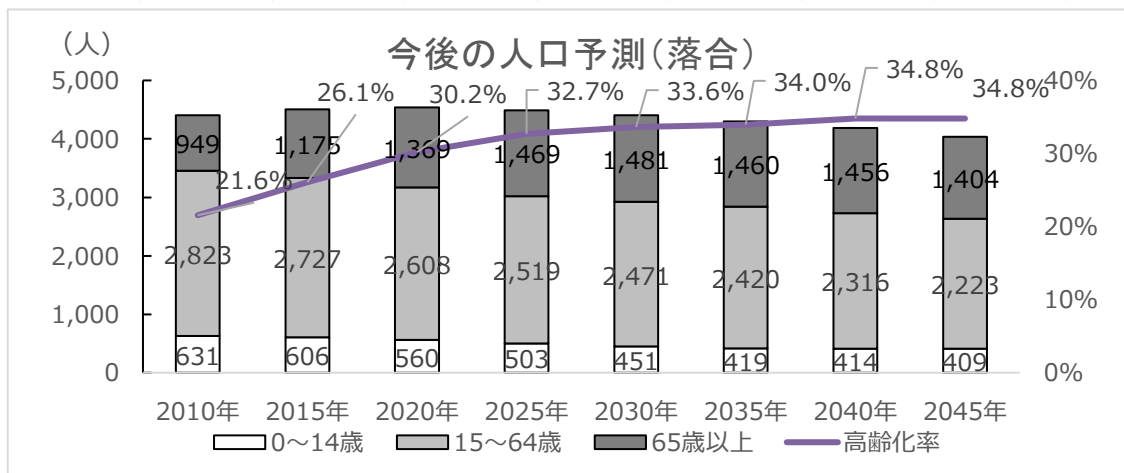
年齢3区分別人口の推移

単位:人

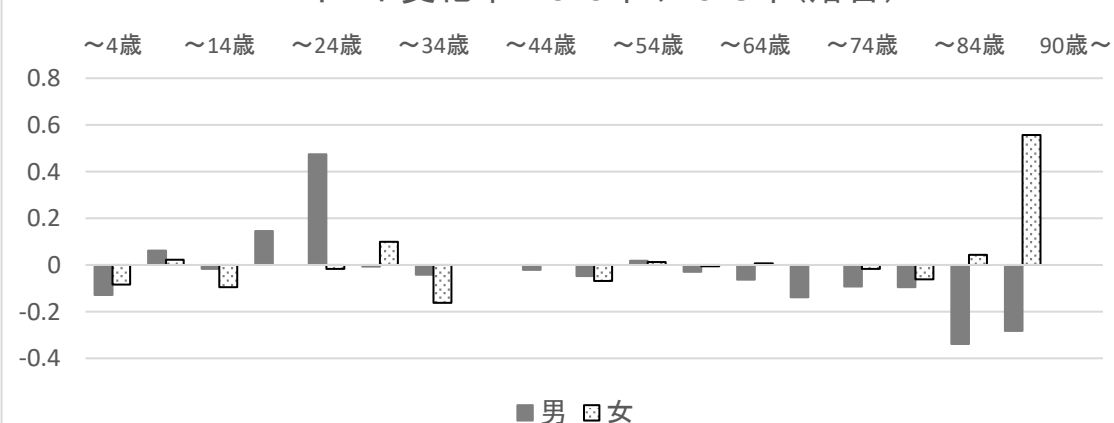
落合地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	631	606	560	503	451	419	414	409
15～64歳	2,823	2,727	2,608	2,519	2,471	2,420	2,316	2,223
65歳以上	949	1,175	1,369	1,469	1,481	1,460	1,456	1,404
総数	4,403	4,508	4,537	4,491	4,403	4,299	4,186	4,036

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	14.3%	13.4%	12.3%	11.2%	10.3%	9.7%	9.9%	10.1%
15～64歳	64.1%	60.5%	57.5%	56.1%	56.1%	56.3%	55.3%	55.1%
高齢化率	21.6%	26.1%	30.2%	32.7%	33.6%	34.0%	34.8%	34.8%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

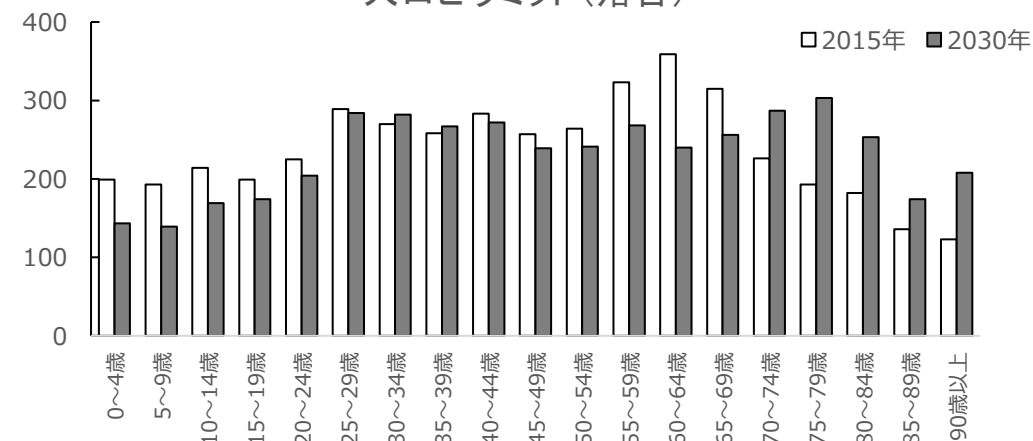


コーホート変化率: 2010年→2015年(落合)



(人)

人口ピラミッド(落合)



■有漢地域

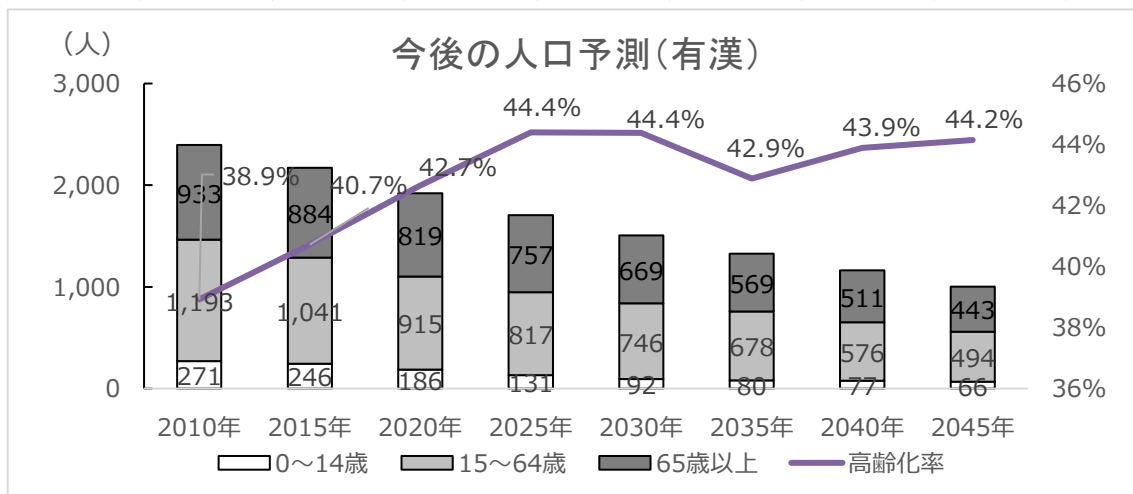
年齢3区分別人口の推移

単位:人

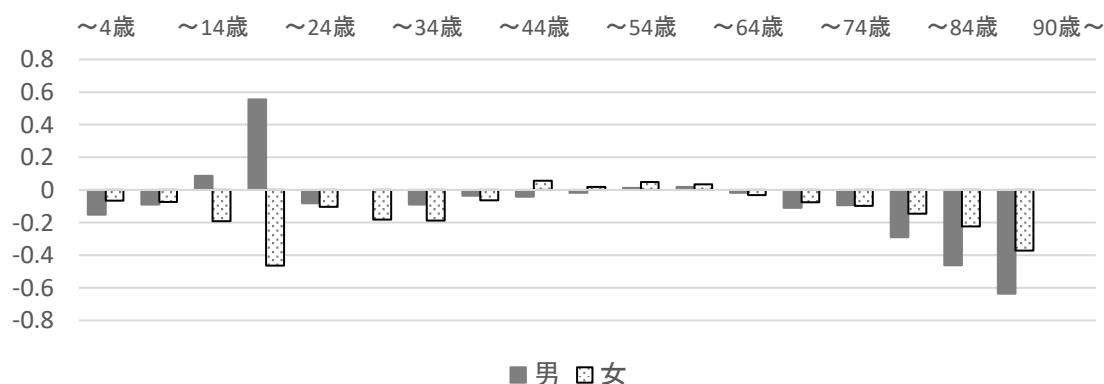
有漢地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	271	246	186	131	92	80	77	66
15～64歳	1,193	1,041	915	817	746	678	576	494
65歳以上	933	884	819	757	669	569	511	443
総数	2,397	2,171	1,920	1,705	1,507	1,327	1,164	1,003

年齢3区分別人口の推移

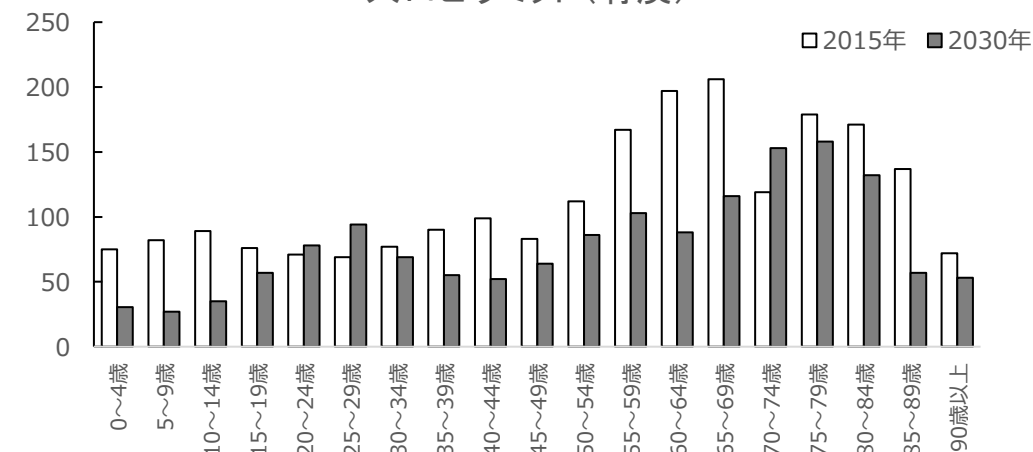
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	11.3%	11.3%	9.7%	7.7%	6.1%	6.0%	6.6%	6.6%
15～64歳	49.8%	48.0%	47.7%	47.9%	49.5%	51.1%	49.5%	49.2%
高齢化率	38.9%	40.7%	42.7%	44.4%	44.4%	42.9%	43.9%	44.2%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



コーホート変化率:2010年→2015年(有漢)



人口ピラミッド(有漢)



■成羽地域

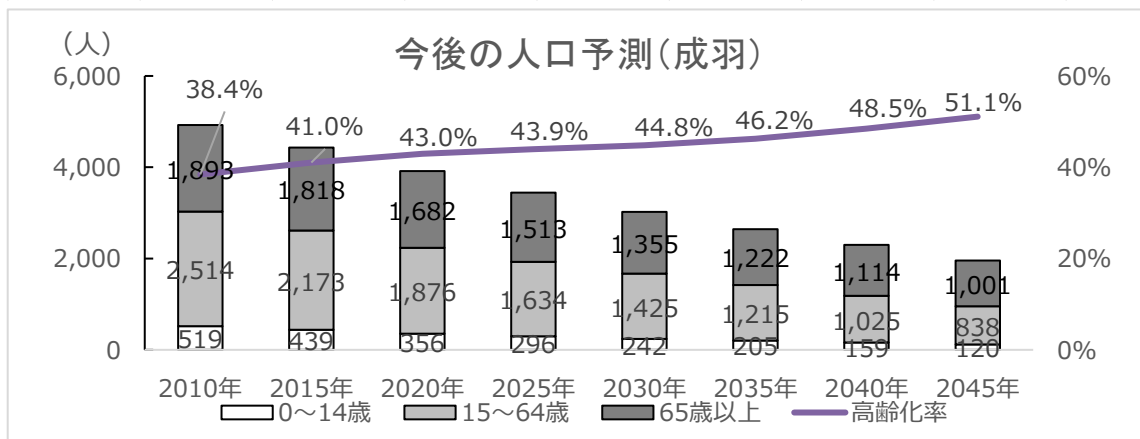
年齢3区分別人口の推移

単位:人

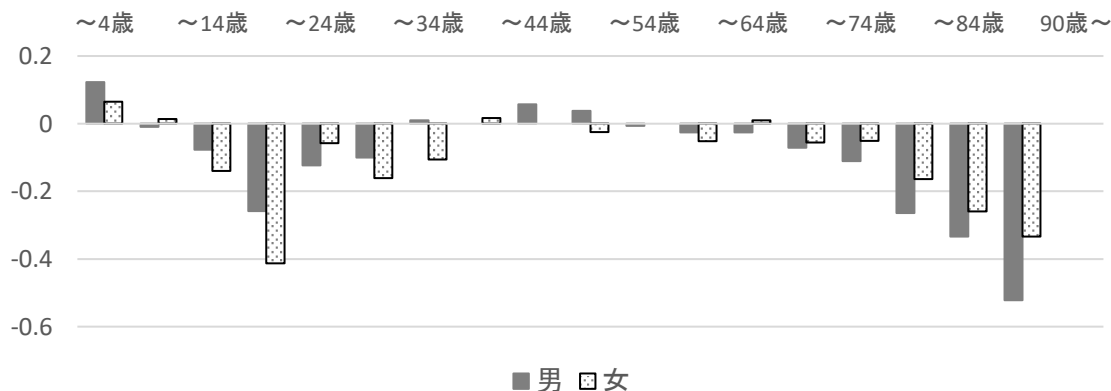
成羽地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	519	439	356	296	242	205	159	120
15～64歳	2,514	2,173	1,876	1,634	1,425	1,215	1,025	838
65歳以上	1,893	1,818	1,682	1,513	1,355	1,222	1,114	1,001
総数	4,926	4,430	3,914	3,443	3,022	2,642	2,298	1,959

年齢3区分別人口の推移

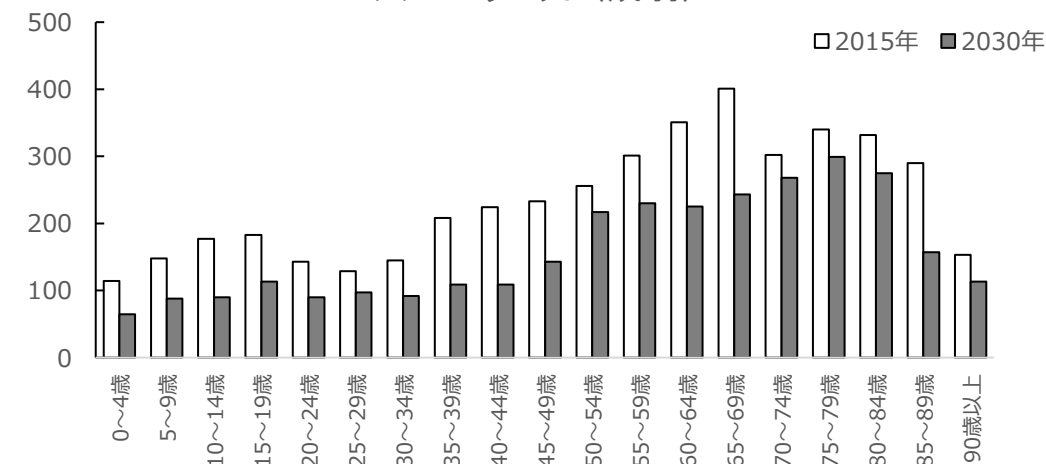
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	10.5%	9.9%	9.1%	8.6%	8.0%	7.8%	6.9%	6.1%
15～64歳	51.0%	49.1%	47.9%	47.5%	47.1%	46.0%	44.6%	42.8%
高齢化率	38.4%	41.0%	43.0%	43.9%	44.8%	46.2%	48.5%	51.1%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



コーホート変化率: 2010年→2015年(成羽)



人口ピラミッド(成羽)



■川上地域

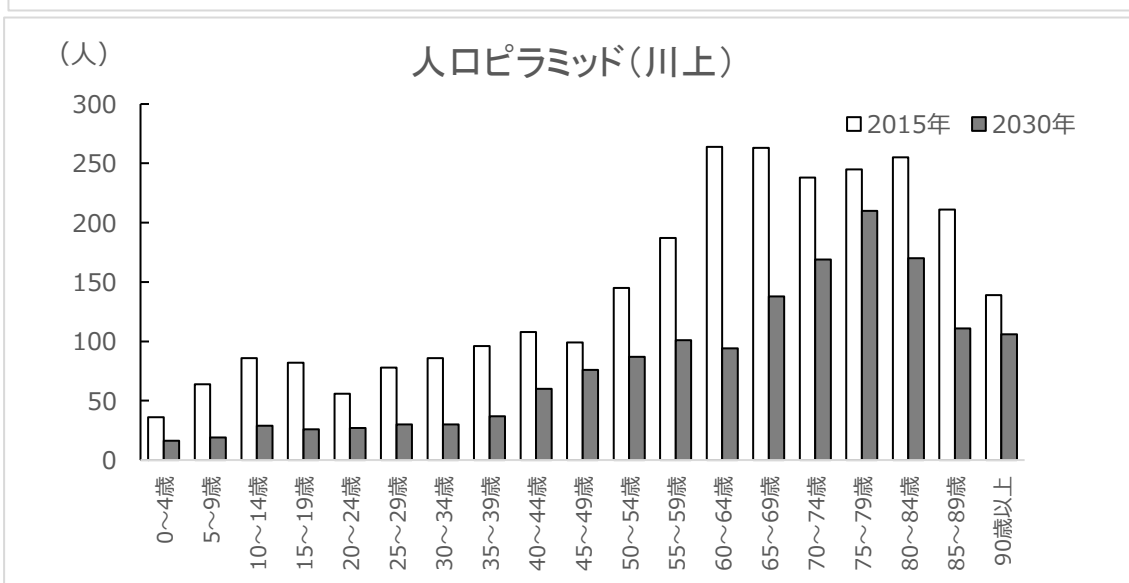
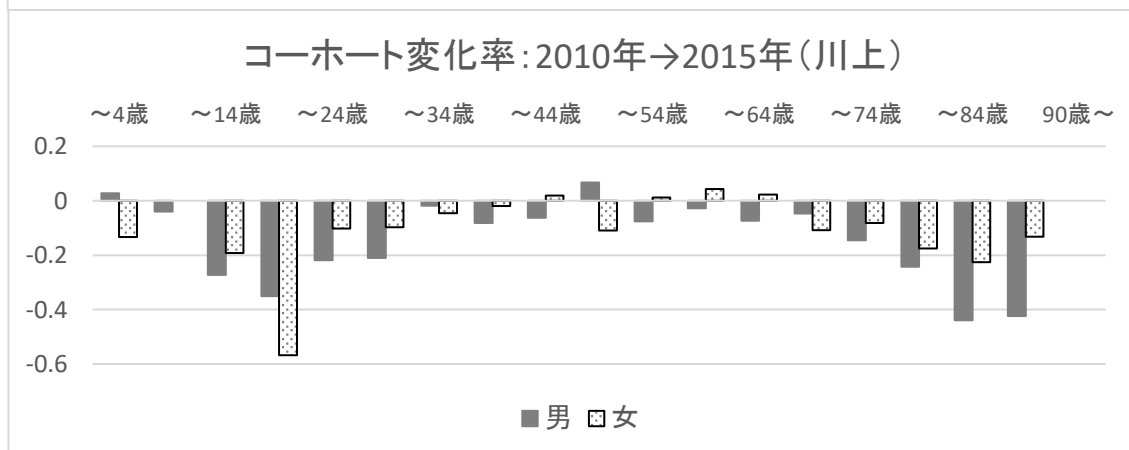
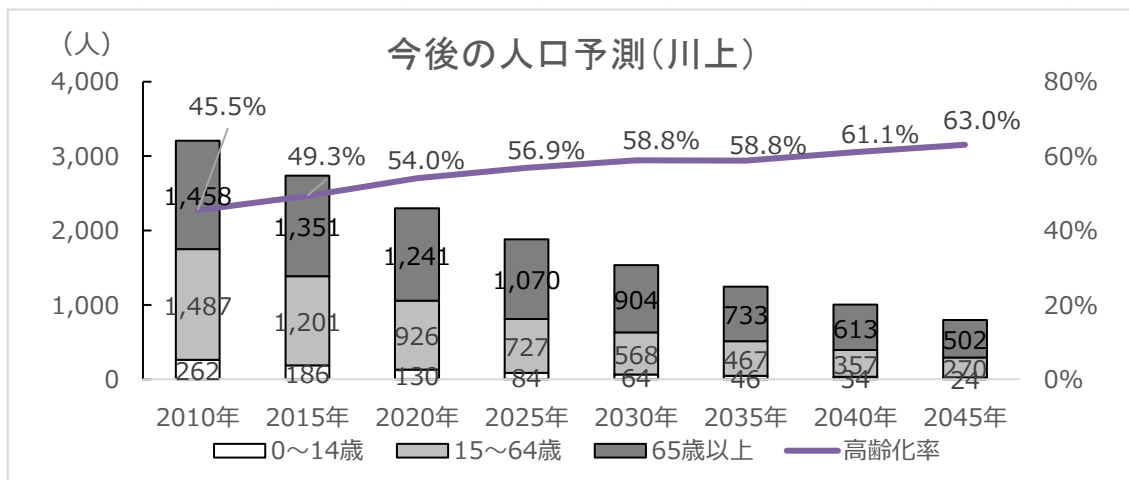
年齢3区分別人口の推移

単位:人

川上地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	262	186	130	84	64	46	34	24
15～64歳	1,487	1,201	926	727	568	467	357	270
65歳以上	1,458	1,351	1,241	1,070	904	733	613	502
総数	3,207	2,738	2,297	1,881	1,536	1,246	1,004	796

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	8.2%	6.8%	5.7%	4.5%	4.2%	3.7%	3.4%	3.0%
15～64歳	46.4%	43.9%	40.3%	38.6%	37.0%	37.5%	35.6%	33.9%
高齢化率	45.5%	49.3%	54.0%	56.9%	58.8%	58.8%	61.1%	63.0%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



■ 備中地域

年齢3区分別人口の推移

単位: 人

備中地域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	184	124	84	58	50	41	33	24
15～64歳	956	794	636	491	370	301	228	180
65歳以上	1,180	1,049	907	761	639	512	431	348
総数	2,320	1,967	1,627	1,310	1,059	854	692	552

年齢3区分別人口の推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	7.9%	6.3%	5.2%	4.4%	4.7%	4.8%	4.8%	4.3%
15～64歳	41.2%	40.4%	39.1%	37.5%	34.9%	35.2%	32.9%	32.6%
高齢化率	50.9%	53.3%	55.7%	58.1%	60.3%	59.9%	62.3%	63.1%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

